

FMV

BIBLO LOOX

FMV-BIBLO LOOX U50WN

B5FJ-4421-01

製品ガイド

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 ハードウェア

3 機能

4 セキュリティ

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 トラブル
シューティング

目次

本書をお読みになる前に

本書の表記	5
商標および著作権について	7

第1章 各部名称

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体上面	12
パソコン本体右側面	13
パソコン本体左側面	14
パソコン本体下面	16
CRT/LAN 変換ケーブル	18
2 状態表示 LED について	19
3 タブレットボタンについて	21

第2章 ハードウェア

1 疲れにくい使い方	24
ディスプレイ	24
使用時間	24
2 周辺機器を取り付ける前に	25
取り扱い上の注意	25
3 ポインティングデバイスについて	26
スティックポイントについて	26
タッチパネルについて	29
4 キーボードについて	31
キーボード	31
5 バッテリーについて	33
バッテリーを充電する	33
バッテリーで運用する	34
バッテリー残量を確認する	35
取り扱い上の注意	36
内蔵バッテリーパックを交換する	38
6 ポータブル CD/DVD ドライブについて	40
使用できるディスク	40
取り扱い上の注意	42
DVD-RAM への書き込み／書き換えについて	44
各部の名称と働き	46
ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し	48
ディスクをセットする／取り出す	50
7 ポートリプリケータについて	53
ポートリプリケータ	53
ポートリプリケータを取り付ける	54
ポートリプリケータを取り外す	56
8 コンパクトフラッシュカードについて	57
取り扱い上の注意	57
コンパクトフラッシュカードをセットする	57
コンパクトフラッシュカードを取り出す	59
9 SD メモリーカードについて	61
取り扱い上の注意	61
SD メモリーカードをセットする	62
SD メモリーカードを取り出す	63

10	プリンタについて	65
	接続について	65
11	外部ディスプレイについて	66
	接続について	66
12	液晶ディスプレイの回転について	69
13	ハードウェアのお手入れ	71
	パソコン本体のお手入れ	71
	液晶ディスプレイのお手入れ	71
	キーボードのお手入れ	72

第3章 機能

1	ディスプレイ関連	74
	液晶ディスプレイの明るさ設定	74
	全画面表示と通常表示の切り替え	76
	ローテーション機能	78
	解像度と色数について	80
	表示装置の切り替え	82
	マルチモニター機能	85
	外部ディスプレイの走査周波数について	88
2	音量の設定	89
	音量ボリュームで調節する	89
	画面上の音量つまみで設定する	89
	再生時／録音時の音量設定について	90
	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える	92
3	通信	94
	LAN について	94
	無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について	96
4	ドライブ関連	98
	ドライブ構成	98
5	省電力	99
	スタンバイ／休止状態／省電力モード	99
	注意事項	99
	省電力の設定	101
	スタンバイまたは休止状態にする	103
	スタンバイまたは休止状態からのレジューム	104
	省電力モードの設定	105

第4章 セキュリティ

1	セキュリティについて	108
2	ネットワーク接続時のセキュリティ	109
	コンピュータウイルス対策	109
	Windows やソフトウェアのアップデート	111
	通信データの暗号化	112
	無線 LAN 使用時の通信データの暗号化	113
3	不正使用からのセキュリティ	114
	Windows のパスワード	114
	管理者権限とユーザーアカウント	114
	アクセス権と暗号化	114
	BIOS のパスワード	115
	指紋センサー	115
4	パソコン本体廃棄時のセキュリティ	116
	パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	116
	ハードディスクのデータ消去サービスについて	117

第5章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	120
各ソフトウェアの紹介	122
アンインストール方法	134

第6章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	136
2 BIOS セットアップの操作のしかた	137
BIOS セットアップを起動する	137
設定を変更する	139
各キーの役割	140
BIOS セットアップを終了する	141
3 メニュー詳細	142
メインメニュー	142
詳細メニュー	143
セキュリティメニュー	144
起動メニュー	146
情報メニュー	147
終了メニュー	147
4 BIOS のパスワード機能を使う	149
パスワードの種類 149	
パスワードを設定する	149
パスワードを設定した後は	151
パスワードを変更／削除する	152
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	154
メッセージが表示されたときは	154
メッセージ一覧	155

第7章 トラブルシューティング

1 トラブルに備えて	160
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	160
Windows のセットアップ後の操作	160
修正プログラムの適用について	161
データのバックアップ	161
自動車内での使用について	161
ドキュメントの確認	161
2 トラブル発生時の基本操作	162
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	162
以前の状態に戻す	162
Safe モードで起動する	162
バックアップを行う	163
メッセージなどが表示されたらメモしておく	163
診断プログラムを使用する	163
リカバリ	164
3 起動・終了時のトラブル	165
4 Windows ・ソフトウェア関連のトラブル	167
5 ハードウェア関連のトラブル	169
ハードウェア関連のトラブル一覧	169
BIOS	170
内蔵 LAN	170
ハードディスク	171
CD / DVD	172
バッテリー	173
ディスプレイ	173

サウンド	174
キーボード	175
ポインティングデバイス	175
USB	175
プリンタ	176
その他	176
6 それでも解決できないときは	177
お問い合わせ先	177
索引	178

本書をお読みになる前に

本書の表記

警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ・ ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ・ CD/DVDドライブなどのドライブ名を、[CD/DVDドライブ]で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD/DVDドライブ]:¥setup.exe

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中のBIOSセットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例： 「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」 - 「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX U50WN	本パソコン パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows
Microsoft® Internet Explorer 7.0	Internet Explorer		
Microsoft® Office Excel 2007	Excel 2007		
Microsoft® Office Outlook® 2007	Outlook 2007		
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007		
Microsoft® Office Word 2007	Word 2007		
Norton Internet Security™ 2007	Internet Security		
InterVideo WinDVD™ 5	WinDVD		
Adobe® Reader™ 8.0.0	Adobe Reader		
RealPlayer™	RealPlayer		

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2007
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

1

第 1 章 各部名称

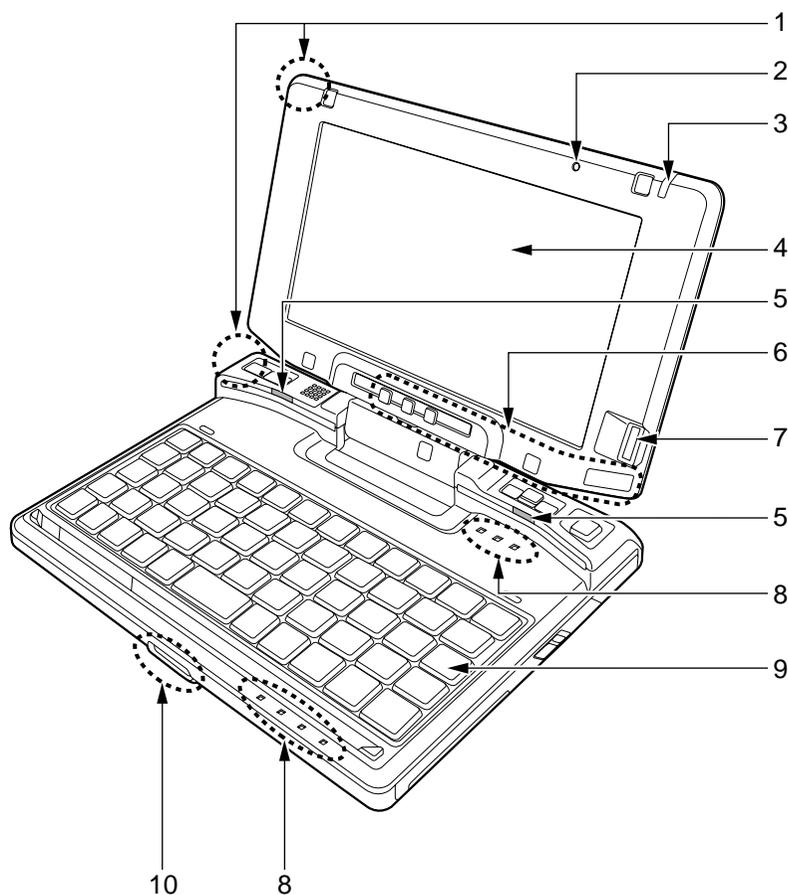
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示 LED について	19
3 タブレットボタンについて	21

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

「機能」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について」(→ P.96)

POINT

- ・無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

2 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- ・マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。
- ・また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。「ミュート」にする方法については、「機能」－「音量の設定」（→ P.89）をご覧ください。
- ・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

3 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

4 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

5 キーボードライト

暗い所などでキーボードを照らします。アプリケーションボタンの「1」ボタンを押すと点灯します。

6 タブレットボタン

ボタンを押すだけで、ソフトウェアの起動などを行うことができます。

7 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。

8 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。
「状態表示 LED について」（→ P.19）

9 キーボード

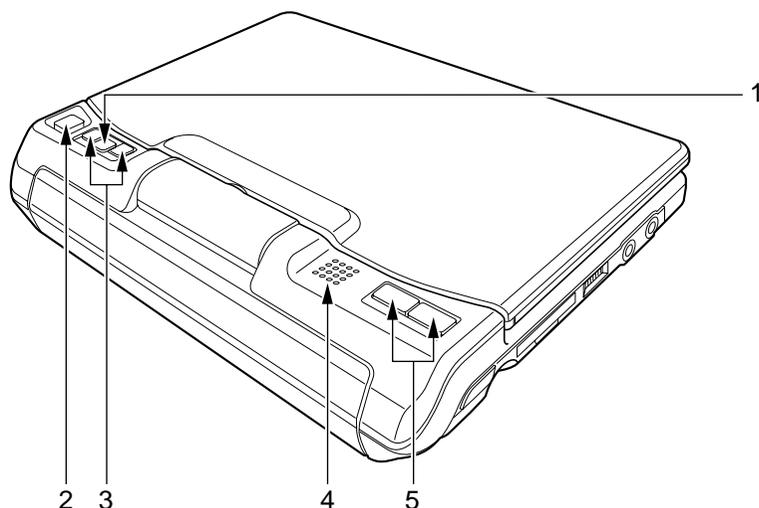
文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。
「ハードウェア」－「キーボードについて」（→ P.31）

10 ポートリプリケータ接続コネクタ／CRT/LAN 変換コネクタ

ポートリプリケータや CRT/LAN 変換ケーブルを接続するためのコネクタです。
「CRT/LAN 変換ケーブル」（→ P.18）

パソコン本体上面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 Fn ボタン

他のボタンと組み合わせて使います。

2 スティックポイント

上下左右に押ししてマウスポインタを操作します。

3 スクロールボタン

画面をスクロールさせます。「Fn」ボタンを押した後に「Up」ボタンを押すと、「PageUP」キーとして働きます。また、「Fn」ボタンを押した後に「Down」ボタンを押すと、「PageDown」キーとして働きます。

4 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。
「機能」－「音量の設定」(→ P.89)

重要

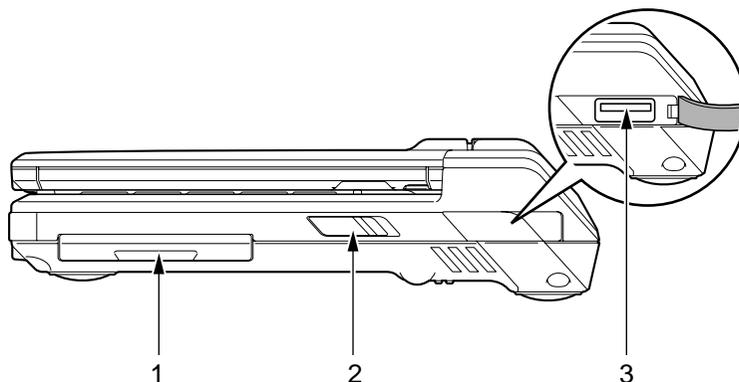
・音量は、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

5 クリックボタン

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

パソコン本体右側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 CF（コンパクトフラッシュ）カードスロット

コンパクトフラッシュカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「コンパクトフラッシュカードをセットする」(→ P.57)

2 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのスイッチです。

POINT

- ・電源スイッチを4秒以上スライドしないでください。
電源スイッチを4秒以上スライドし続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

3 USB コネクタ (USB)

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

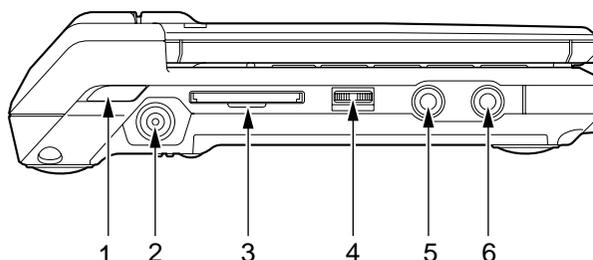
USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ・ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

パソコン本体左側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ワイヤレススイッチ

無線 LAN の ON と OFF を切り替えます。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- 無線 LAN については『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

2 DC-IN コネクタ (==)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

3 SD メモリーカードスロット

SD メモリーカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「SD メモリーカードをセットする」(→ P.62)

4 音量ボリューム

音量を調節します。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート（消音）になります。

音声入出力時のバランスや音量などは、音量を設定する画面で設定できます。音量ボリュームで調節しても、音量が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は、画面の音量つまみで調節してください。

「機能」－「音量の設定」(→ P.89)

POINT

- 音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、音量を設定する画面の設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

5 マイク・ラインイン兼用端子 (🎤)

市販のマイクを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。ただし、市販されているマイクの一部の機種 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ライン入力端子として使用することもできます。

設定を変更する方法については、「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子/マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」(→ P.92) をご覧ください。

重要

- ・マイク端子には、マイク以外のコネクタを接続しないでください。故障の原因となることがあります。

6 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 (🎧)

市販のヘッドホンを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。ただし、形状によっては使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ライン出力端子として使用することもできます。

設定を変更する方法については、「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子/マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」(→ P.92) をご覧ください。

注意



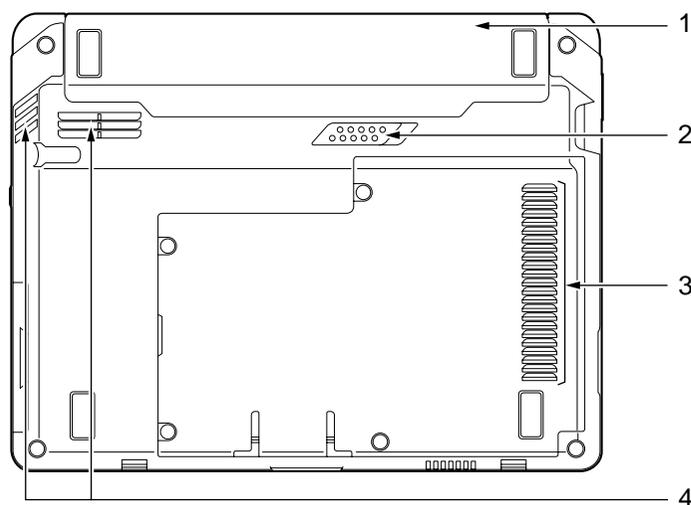
- ・ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- ・電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

パソコン本体下面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 内蔵バッテリーパック

内蔵バッテリーパックが装着されています。

「ハードウェア」－「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.38)

2 内蔵バッテリーパックロック

内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドさせます。

「ハードウェア」－「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.38)

3 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- ・吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

4 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。

このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

⚠ 注意



- ・排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

重要

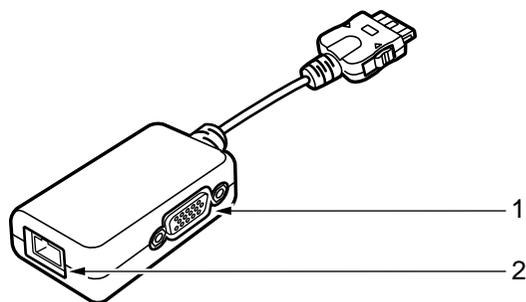
- ・ 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ・ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。
- ・ 布団やクッションなどのやわらかい物の上に置いて、使用しないでください。

CRT/LAN 変換ケーブル

👉 重要

- ・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 外部ディスプレイコネクタ (□)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.66)

2 LAN コネクタ (品)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

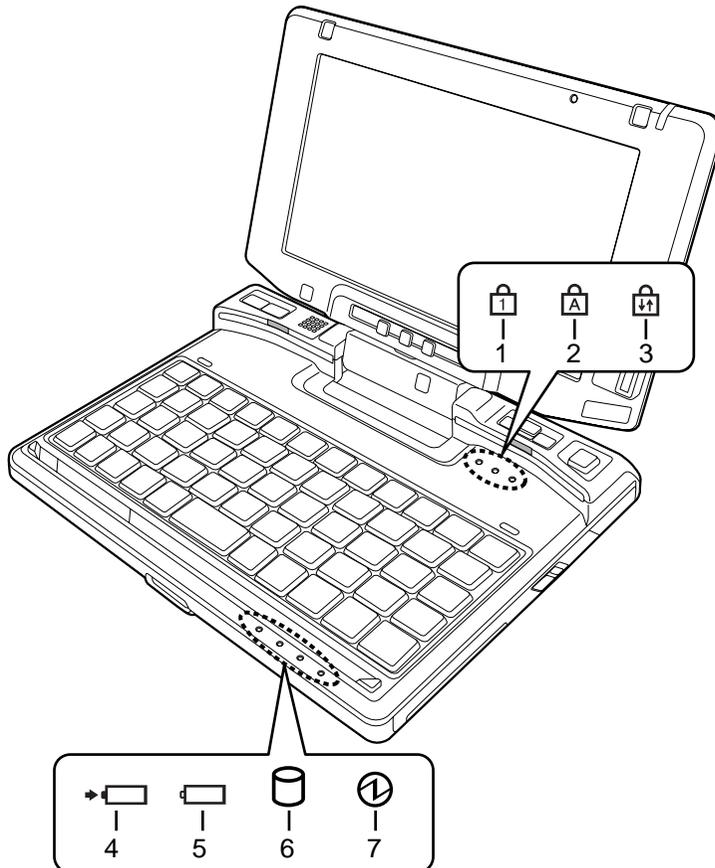
ポートリプリケータ接続時には、ポートリプリケータの LAN コネクタをお使いください。

「機能」－「LAN について」(→ P.94)

2 状態表示 LED について

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

状態表示 LED は、点灯したり、点滅したりして、パソコンの各種状態を表します。それぞれのマークには、次のような意味があります。



POINT

- ・電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LED の全ランプが消灯します。

1 Num Lock ランプ (🔒)

画面上で使用するソフトキーボードや、このパソコンに接続した USB キーボードを、テンキーモードで使用するとき点灯します。

テンキーモードには、それぞれのキーボードの【Num Lock】キーで切り替えることができます。なお、パソコン本体のキーボードには【Num Lock】キーを搭載していないため、テンキーモードに切り替えることはできません。

2 Caps Lock ランプ (A)

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

【Shift】 + 【Fn】 + 【Z】 キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

3 Scroll Lock ランプ (A)

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】 + 【X】 キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

4 バッテリ充電ランプ (→□)

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリーパックの充電状態を表示します。

「ハードウェア」 - 「バッテリーを充電する」 (→ P.33)

5 バッテリ残量ランプ (□)

本パソコンに接続されている内蔵バッテリーパックの残量を表示します。

「ハードウェア」 - 「バッテリー残量を確認する」 (→ P.35)

6 ディスクアクセスランプ (A)

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- ・ ディスクアクセスランプが点灯中に、電源スイッチを操作すると、ハードディスクが壊れるおそれがあります。

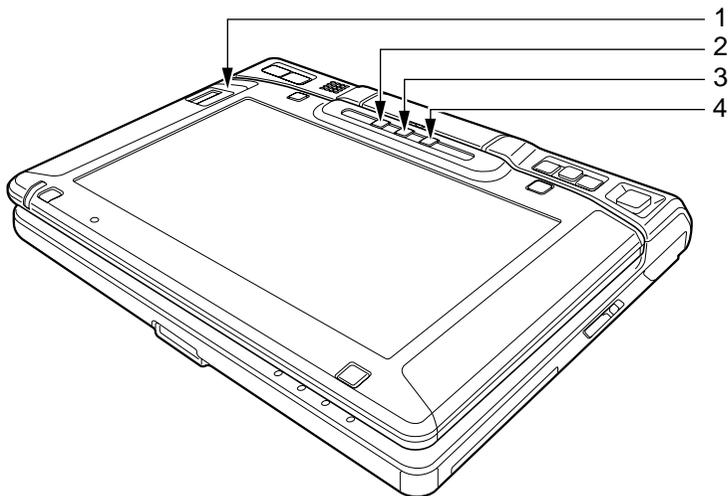
7 電源ランプ (A)

パソコンの電源が入っているときに点灯します。また、このほかに次の状態を表します。

- ・ 点滅
スタンバイ状態を表します。
- ・ 消灯
電源が切れている状態、または休止状態を表します。

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各機能呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアを起動することができます。



	ボタン	機能
1	[CTRL]+[ALT]+[DEL]ボタン	2秒以上押し続けると、キーボードで [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押したときの動作をします。
2	ローテーションボタン	表示画面の向きを切り替えます。
3	アプリケーションボタン2	スクリーンキーボードが起動します。Fn ボタンを押した後にこのボタンを押すと、「メモ帳」が起動します。
4	アプリケーションボタン1	キーボードライトを点灯/消灯させます。Fn ボタンを押した後にこのボタンを押すと、「省電力ユーティリティ」のモードが切り替わります。

Memo

2

第2章

ハードウェア

本パソコンを使用する上での基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 疲れにくい使い方	24
2 周辺機器を取り付ける前に	25
3 ポインティングデバイスについて	26
4 キーボードについて	31
5 バッテリーについて	33
6 ポータブル CD/DVD ドライブについて	40
7 ポートリプリケータについて	53
8 コンパクトフラッシュカードについて	57
9 SD メモリーカードについて	61
10 プリンタについて	65
11 外部ディスプレイについて	66
12 液晶ディスプレイの回転について	69
13 ハードウェアのお手入れ	71

1 疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

ディスプレイ

- ・ 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- ・ 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ・ ディスプレイの上端が目と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ・ ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- ・ 目と画面の距離は、40cm以上離すようにしましょう。

使用時間

- ・ 1時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1時間に10～15分程度の休憩時間を取りましょう。また、休憩時間までの間に1～2分程度の小休止を1～2回取り入れましょう。

2 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- ・ **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

- ・ **マニュアルをご覧ください**

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- ・ **純正品をお使いください**

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEBMART (ウェブマート)」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- ・ **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

- ・ **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

重要

- ・ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ・ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1 つずつ取り付けて設定してください。

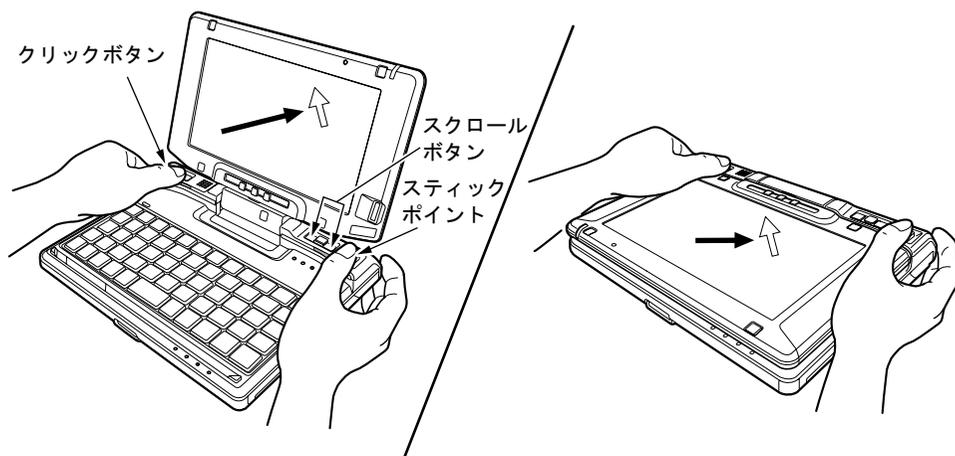
3 ポインティングデバイスについて

スティックポイントについて

スティックポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。

スティックポイントは、マウスでいえばボールやセンサー部分の機能を持ち、スティックポイントを前後左右に指先で押すことにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。

クリックボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

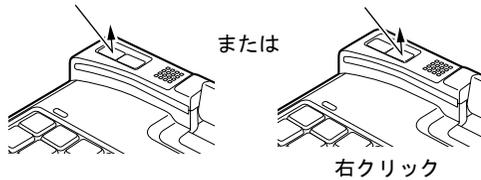


POINT

- ・スティックポイントのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップが古くなった場合は、添付のスティックポイント用キャップと交換してください。スティックポイント用キャップは、富士通サプライ品です。
お問い合わせ先
富士通コワーコ株式会社 お客様総合センター
電話：0120-505-279
受付時間：月～金／9:00～17:30（土・日・祝日・年末年始除く）
URL：<http://jp.fujitsu.com/coworco/>
- ・スティックポイントとマウスの同時使用については、「マウスのプロパティ」ウィンドウで設定できます。詳しくは、「USB マウスをお使いの場合」（→ P.28）をご覧ください。

スティックポイントの使い方

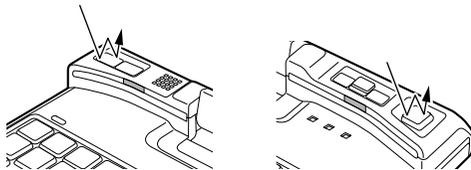
・クリック



スティックポイントを1回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。

また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

・ダブルクリック



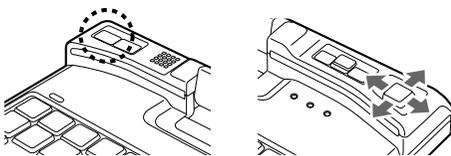
スティックポイントを2回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。

・ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせることで、マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

・ドラッグ



左ボタンを押しながら、希望の位置までスティックポイントを押します。スティックポイントだけでドラッグする場合は、スティックポイントをタップし、押し込んだままの状態希望の位置まで上下左右に押します。

・スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンの左右を押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

- ・左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」アイコンをクリックしてください。
- ・スティックポイントをタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。

USB マウスをお使いの場合

パソコンに USB マウスを接続すると、スティックポイントと USB マウスの両方が有効になります。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックします。
- 2** 「マウス」アイコンをクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度も変更できます。

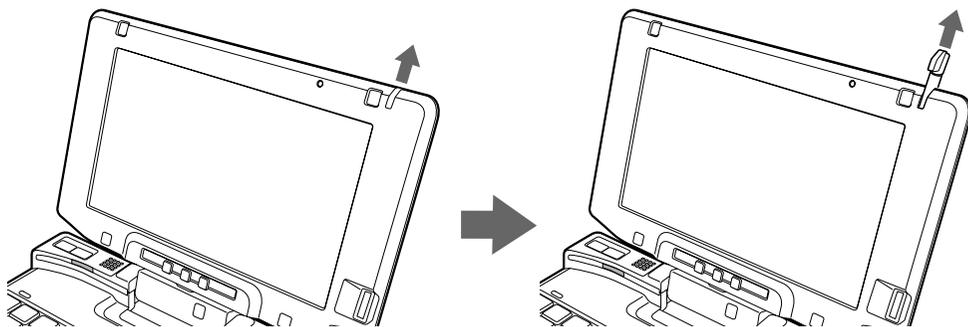
POINT

- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、USB マウスを接続したときのスティックポイントの動作を設定するには、「Alps Pointing Device Driver」が必要です。本パソコンにはインストールされています。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「スティック」タブを選択するとポインティングデバイスの動作の確認と変更をすることができます。

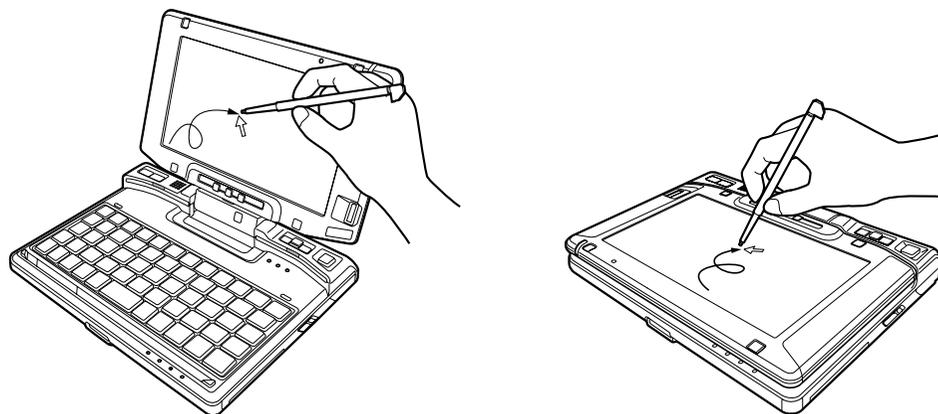
タッチパネルについて

タッチパネルは、画面上で直接マウスポインタを操作できる便利なポインティングデバイスです。本パソコンの液晶ディスプレイに貼り付けられているタッチパネルを、添付のペンで操作します。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

画面上部のスリットから、ペンを垂直に引き出してください。
(ペンを使わないときは、ここに差し込んでおきます)



画面上でペンを移動させると、マウスポインタが移動します。

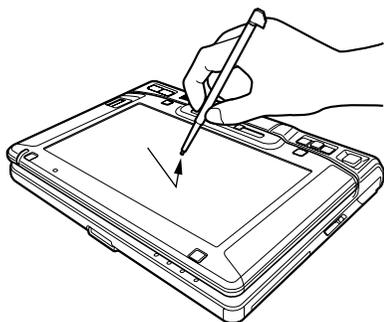


POINT

- ・タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
- ・ペン先が引っ込まない程度で操作してください。
過度の力を加えると、タッチパネルやディスプレイが破損するおそれがあります。
- ・ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。
- ・ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

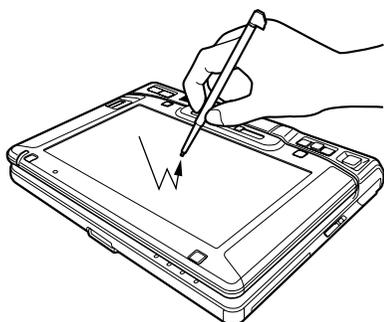
タッチパネルの使い方

・タップ



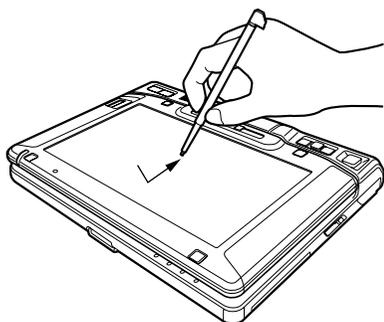
ペンで画面を1回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

・ダブルタップ



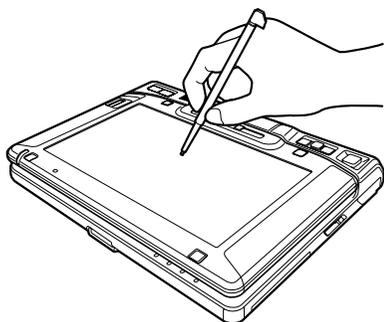
ペンで画面を素早く2回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

・ドラッグ



画面に軽く押し付けながらなぞります。

・ポイント



ペンで画面に軽く触れます。

4 キーボードについて

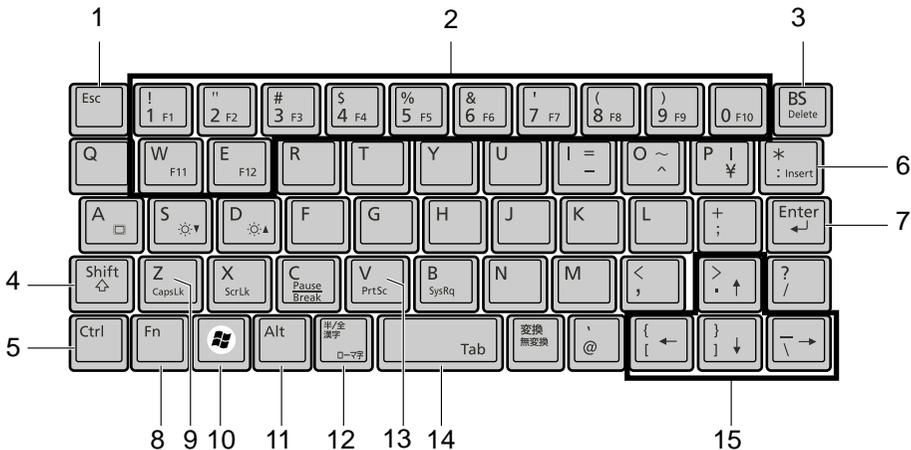
キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

POINT

- お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになれます。
- 2つの青字が刻印されている場合、上段の青字は【Fn】+【Shift】キーと一緒に押すとお使いになれます。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



主なキーの名称と働き

1 【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】+【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。【Fn】キーと一緒に押して使用します。

3 【BS】キー／【Delete】キー

【BS】キー カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

【Delete】キー 【Fn】キーと一緒に押すと、カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。また、【Fn】+【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

4 【Shift】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

5 【Ctrl】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

6 【Insert】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7 【Enter】 キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

8 【Fn】 キー

本パソコン独自のキーです。キーボードに青字で刻印されているキーを使用するときに、一緒に押します。

次のような働きがあります。

【Fn】 + 【S】 液晶ディスプレイを暗くします。
「機能」 - 「液晶ディスプレイの明るさ設定」 (→ P.74)

【Fn】 + 【D】 液晶ディスプレイを明るくします。
「機能」 - 「液晶ディスプレイの明るさ設定」 (→ P.74)

【Fn】 + 【A】 外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。
「機能」 - 「表示装置の切り替え」 (→ P.82)

9 【CapsLk】 キー

【Fn】 + 【Shift】 キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

CapsLk を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

10 【】 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

11 【Alt】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

12 【半角／全角】 キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

13 【PrtSc】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。

また、【Fn】 + 【Alt】 キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

14 【Space】 キー

空白を入力します (キーボード手前中央にある、横長のキーです)。

15 【↑】 【↓】 【←】 【→】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、カーソルを移動します。

5 バッテリーについて

バッテリーを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると、充電が始まります。

状態表示 LED のバッテリー充電ランプ (▶□) が点灯し、内蔵バッテリーパックの充電状態が表示されます (→ P.33)。

2 バッテリー充電ランプが緑色点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

- ・ 充電時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ・ 本パソコンご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ・ バッテリーの充電は、バッテリー充電ランプが緑色点灯するまで十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ・ バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ・ 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LED の全表示が消灯します。
- ・ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ・ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリー充電ランプがオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリーの充電状態 (バッテリー充電ランプ)

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリー充電ランプに、内蔵バッテリーパックの充電状態を表示します。

LED 表示	バッテリーパックの充電状態
緑色点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリー温度アラーム時など ^注)

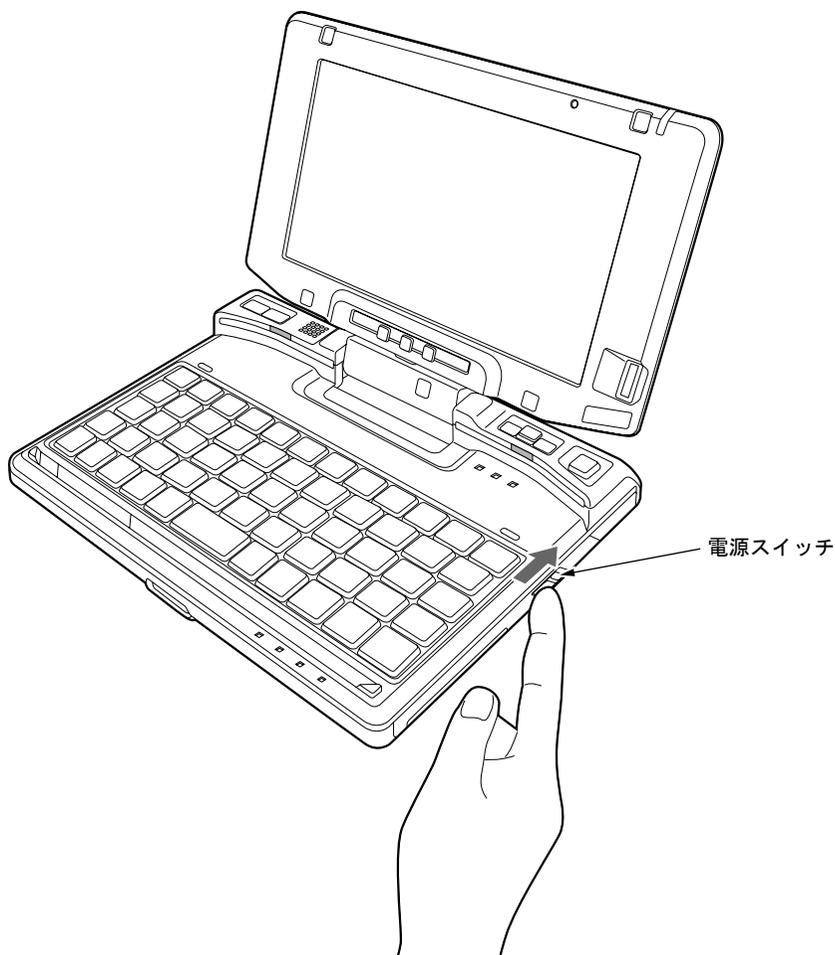
注：バッテリー温度アラームとは、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなった場合に、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止することです。

POINT

- ・ バッテリー充電ランプが消灯している時は、AC アダプタが接続されていません。
- ・ 内蔵バッテリーパックが取り付けられていない場合にも、バッテリー充電ランプが「緑色点灯」表示になります。

バッテリーで運用する

- 1 ACアダプタを取り外し、電源スイッチをスライドさせます。



POINT

- ・周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ・バッテリー稼働時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ・バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください(→P.38)。

バッテリー残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリー残量ランプで確認できます。

バッテリーの残量表示（バッテリー残量ランプ）

パソコンが動作状態のときは点灯し、スタンバイのときは点滅します。

緑色点灯／点滅 約 100%～約 50%のバッテリーレベルを示します。



オレンジ点灯／点滅 約 49%～約 13%のバッテリーレベルを示します。



赤色点灯／点滅 **LOW** バッテリー状態（約 12%以下のバッテリーレベル）を示します。**LOW** バッテリー状態では、スピーカーが ON の場合は警告音が鳴ります。

POINT

- ・バッテリー残量ランプは、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ・バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ・バッテリー残量ランプは、動作状態またはバッテリー充電中に点灯します。スタンバイ状態で、AC アダプタが接続されていない場合には、点灯ではなく点滅になります。
- ・電源 ON 時に早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリーが正しく充電できないことを示します。

バッテリー温度アラーム（バッテリー充電ランプ）

バッテリー充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、点灯になり充電を再開します。

バッテリーの異常表示（バッテリー残量ランプ）

バッテリー残量ランプが、早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリーが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ・バッテリー残量ランプが早い間隔で赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも赤色点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
- 内蔵バッテリーの交換については「内蔵バッテリーパックを交換する」（→ P.38）をご覧ください。

LOW バッテリ状態

バッテリーが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリーを充電してください。

POINT

- ・ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます。詳しくは、「機能」－「省電力の設定」（→ P.101）をご覧ください。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。音量ボリュームを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください。
- ・ Windows の起動前（BIOS セットアップなど）では、警告音が鳴るように設定できません。
- ・ LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ・ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- ・ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどヘデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ・ 本パソコンではバッテリー残量が約 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」ただし、これらの設定を変更すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

警告



- ・ バッテリーの交換などで、バッテリーパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリーパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリーパックの破裂の原因となります。

・ 分解しないでください

バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

・ 放電について

- バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。

・ 寿命について

- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
- 高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。

- 短時間に大量の電力を消費したり、バッテリー切れ状態になるまで使用したりすると、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で次のように設定すると、バッテリーの寿命が長くなります。
 - ・「電源設定」で「バッテリーの最大利用」またはそれに準じた設定にする
 - ・「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」のチェックを外さない
- バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
- 寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けのまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- ・ **廃棄・リサイクルについて**
バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
また、バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
バッテリーパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- ・ **バッテリー稼働時間について**
 - バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します。詳しくは、「機能」－「省電力」（→P.99）をご覧ください。
 - バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- ・ **次のような場合は AC アダプタを使用してください**
 - ハードディスクや CDなどを頻繁に使用するとき
 - LANを頻繁に使用するとき
 - 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
- ・ **次のような場合は、バッテリー残量に注意してください**
 - 無線 LANなどのワイヤレス機器を使用するとき
 - BIOS セットアップを操作するとき

内蔵バッテリーパックを交換する

内蔵バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

警告



- ・バッテリーパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

新しい内蔵バッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。

品名：内蔵バッテリーパック

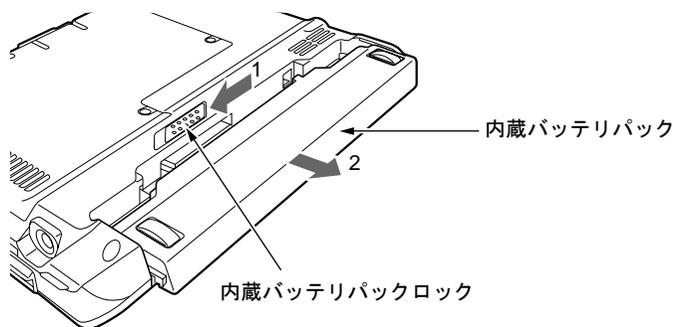
型名：FMVNBP161

品名：内蔵バッテリーパック（L）

型名：FMVNBP162

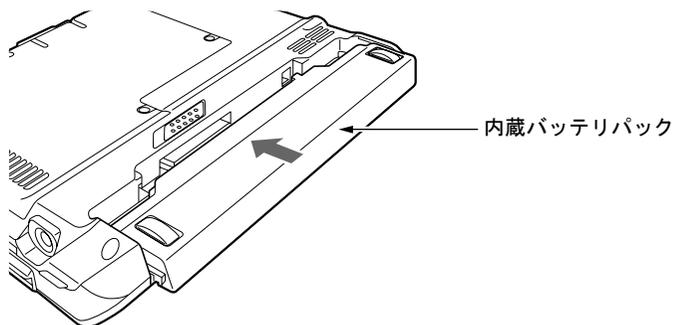
（ご購入元にお問い合わせください）

- 1** パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3** 内蔵バッテリーパックロックを矢印の向きにスライドさせながら（1）、内蔵バッテリーパックを取り外します（2）。



4 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

内蔵バッテリーパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリーパックは自動的にロックされます。



重要

- ・ 取り外した内蔵バッテリーパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外した内蔵バッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、内蔵バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

6 ポータブルCD/DVDドライブについて

使用できるディスク

ここでは、ご購入時にポータブル CD/DVD ドライブを選択された方がこのパソコンでお使いになることのできる CD や DVD について説明します。

- ・このパソコンで使える CD や DVD の種類は次の表のとおりです。

ドライブ ^[注1]	ポータブルスーパーマルチ ドライブ			ポータブル CD-RW/DVD-ROM ドライブ		
	読み出し (再生) ^[注2]	書き込み	書き換え	読み出し (再生) ^[注2]	書き込み	書き換え
CD-ROM 音楽 CD ビデオ CD フォト CD	○	×	×	○	×	×
CD-R	○	○ ^[注3]	×	○	○ ^[注3]	×
CD-RW	○	○ ^{[注3][注4]}	○ ^[注4]	○	○ ^{[注3][注4]}	○ ^[注4]
DVD-Audio	×	×	×	×	×	×
DVD-ROM DVD-VIDEO	○ ^[注5]	×	×	○ ^[注5]	×	×
DVD-R for Authoring (3.95GB・4.7GB)	○	×	×	○	×	×
DVD-R for General (4.7GB)	○	○ ^[注3]	×	○	×	×
DVD-RW	○	○ ^{[注3][注4]}	○ ^[注4]	○	×	×
DVD-RAM (2.6GB・5.2GB)	○	×	×	○	×	×
DVD-RAM ^[注6] (4.7GB・9.4GB)	○	○	○	○	×	×
DVD+R (4.7GB)	○	○ ^[注3]	×	○	×	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○ ^{[注3][注4]}	○ ^[注4]	○	×	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	○ ^[注3]	×	○	×	×
DVD-RAM2 ^[注7]	×	×	×	×	×	×

注1：選択したドライブをご確認ください。

注2：ディスクによってはご利用になれない場合もあります。また、ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたします。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。

- 注3：データの追記が可能な CD や DVD への追記は「Easy Media Creator」で行います。なお、データの追記を行うためには、「Easy Media Creator」を使って CD や DVD にデータの書き込みを行う際に、CD や DVD を追記可能な状態にしておく必要があります。詳しくは「Easy Media Creator」をご覧ください。
- 注4：CD-RW や DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータを全て消去する必要があります。
- 注5：DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに [2] が含まれているか、もしくは [ALL] のものを使用できます。
- 注6：購入した DVD-RAM を使いはじめるには、DVD-RAM ドライバをインストールしてから、DVD-RAM のフォーマットを行う必要があります。DVD-RAM ドライバのインストールや DVD-RAM のフォーマットについては、「DVD-RAM への書き込み／書き換えについて」をご覧ください。
- 注7：DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。

- ・本製品に使用するディスクは、以下のものを推奨します。
ポータブルスーパーマルチドライブをお使いの場合

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
CD-RW	三菱化学メディア（株）、富士通サプライ品
DVD-R	松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R DL	三菱化学メディア（株）
DVD-RW	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-RAM	松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD+R	（株）リコー、三菱化学メディア（株）
DVD+R DL	三菱化学メディア（株）
DVD+RW	（株）リコー、三菱化学メディア（株）

ポータブル CD-RW/DVD-ROM ドライブをお使いの場合

ディスク	メーカー
CD-R	太陽誘電（株）、（株）リコー、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
CD-RW	三菱化学メディア（株）、富士通サプライ品

富士通サプライ用品については、以下にお問い合わせ下さい。

富士通コワーコ株式会社 お客様総合センター

0120-505-279

9:00～17:30（土曜・日曜・祝日・年末年始除く）

<http://jp.fujitsu.com/coworco/>

DVD-RAM ディスクについて

- ・DVD-RAM ディスクは、「記録できる DVD」として、パソコンデータの大容量記録再生を目的に開発されたリムーバブルディスクです。

DVD-RAM ディスクには、以下のタイプがあります。

- TYPE1：カートリッジからのディスクの取り出しはできません。
- TYPE2：片面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- TYPE4：両面のディスクで、カートリッジからディスクの取り出しができます。
- カートリッジなし
- ・本機でご使用いただける DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。また TYPE1 はご使用できませんのでご注意ください。
本製品では読み出しのみ対応しています。

重要

- ・省電力モードには対応しておりません。
- ・円形以外（星型やカード型などの変形）のディスクはお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- ・傷またはヒビの入ったディスクをお使いになると、ドライブ内部で破損する場合があります。
- ・ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外になります。
- ・市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- ・規格外の厚さの DVD 媒体はお使いにならないでください。DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- ・コピーコントロール CD については、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



POINT

- ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクや Video CD は、正常に再生できない場合があります。
- ・DVD-Audio はお使いになれません。
- ・本パソコンで作成した CD-R/RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
- ・本パソコンで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW、および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては再生できない場合があります。また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。

取り扱い上の注意

ディスクご使用時の注意事項

- ・ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- ・データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- ・曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- ・汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ・コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- ・高温や低温の場所に保管しないでください。
- ・湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ・パソコン本体のハードディスク / CD アクセスランプが点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。

- ・ CD 自動挿入機能（オートラン）が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って CD 自動挿入機能を設定してください。
- ・ ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、タブレットボタンの【CTR】 + 【ALT】 + 【DEL】 ボタンやキーボードの【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Fn】 + 【BS】 キーを押す操作もしないでください。
- ・ 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ・ ディスクに書き込み／書き換えをする場合にスタンバイや休止状態、パソコンのディスプレイの電源が切れる状態にならないように設定を変更してください。
- ・ ディスクへの書き込みには、多くの電力を使用します。パソコン本体に AC アダプタを取り付けてお使いください。
- ・ ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

DVD-Video ご使用時の注意事項

- ・ 次の DVD-Video がお使いになれます。
 - DVD-Video に記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク。
- ・ ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- ・ リージョン（地域）コードについて
 - リージョン（地域）コードの変更は 4 回までです。
リージョン（地域）コードを 4 回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- ・ DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region. と表示されます）。

DVD ディスク再生時の注意事項

- ・ 再生する DVD-Video によっては、コマ落ちをする場合があります。
- ・ 画面の解像度や発色数をご購入時の状態から変更している場合は、DVD-VIDEO を再生するときに、ご購入時の状態に戻してください。他の値に設定すると DVD-VIDEO が正しくご覧になれない場合があります。
 - 解像度：1024 × 600
 - 発色数：最高（32 ビット）

- ・「WinDVD」の設定を変更した直後は、DVD-Video の再生が不安定になる場合があります。
- ・キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- ・MPEG1 のデータによっては再生できないものがあります。
- ・市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。自動検索の機能を持つウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に、一時的に起動しないようにしてください。なお、本パソコンに添付のアンチウイルスソフトは問題ありません。
- ・DVD-Video の再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ち／音飛びする場合があります。コマ落ち／音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- ・DVD ディスクおよびビデオ CD によっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- ・マウスカーソルのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスカーソルが点滅することがあります。このような時は、「マウスのプロパティ」ウィンドウの「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- ・縦横比が 16:9 で録画されている DVD-Video をフルスクリーン表示をさせた場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

POINT

- ・スーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・本パソコンでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.40)に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。
- ・「WinDVD」では DVD-Video および DVD-VR/+VR フォーマットのデータのみ再生できます。その他の形式でフォーマットされたデータの再生および動作保証はできません。
- ・DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません。
- ・DVD はソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。「WinDVD」では、ソフト制作者が意図したディスク内容に従って再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。
再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の時には、コピープロテクトされた DVD-VIDEO は再生できません。

DVD-RAM への書き込み／書き換えについて

スーパーマルチドライブで DVD-RAM を作成する場合には、あらかじめ DVD-RAM ディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。

9.4GB の両面タイプの DVD-RAM ディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。

DVD-RAM のフォーマット形式

DVD-RAM ディスクのフォーマットには、次のものがあります。

■ FAT 形式

Windows の標準フォーマットで、ハードディスクなどでも使用されています。

- ・ FAT32

Windows の標準フォーマットです。

■ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVD の統一標準フォーマットです。UDF 形式でフォーマットした DVD-RAM メディアでは、エラーチェックツールや最適化（デフラグ）ツールは実行できません。

- ・ UDF1.5

DVD-RAM ディスクの標準フォーマットです。

- ・ UDF2.0（「DVD-RAM ドライバソフト」のみ選択可能）

DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

ソフトウェアについて

スーパーマルチドライブで DVD-RAM に書き込み、書き換えする場合は、DVD-RAM ドライバをインストールする必要があります。インストールする場合は「アプリケーションディスク 2」を用意してください。

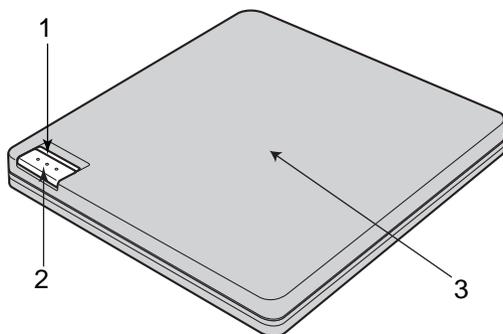
- 1 Windows に「コンピュータの管理者」アカウントでログオンします。**
- 2 「アプリケーションディスク 2」をセットします。**
「FM かんたんインストール」ウィンドウが表示された場合は終了させてください。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 4 「名前」に半角英数で次のように入力し、「OK」をクリックします。**
e:¥dvdmulti¥setup.exe
- 5 DVD-RAM ドライバをセットアップするための案内が表示されます。このあとは、案内に従って操作してください。**

DVD-RAM ディスクに書き込むときの準備

- ・ DVD-RAM を初めてお使いになる場合は、DVD-RAM をこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。
9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. DVD-RAM を割り当てているドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
 3. フォーマット種別を選びます。「ボリュームラベル」に名前を入力します。
 4. 「開始」ボタンをクリックします。
 5. 「はい」をクリックすると、フォーマットが始まります。
 6. 「フォーマットが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
 7. 「閉じる」をクリックします。
- ・ DVD-RAM ディスクをフォーマットする場合は、お使いになる目的にあわせて、フォーマット形式を選んでください。

各部の名称と働き

表面



1 インジケータ

- ・ 緑色点灯：本製品の電源が入っている状態です。
 - ・ オレンジ色点灯：記録・再生している状態です。
- SmoothLink 機能時は一時的に緑色点灯に変化します。

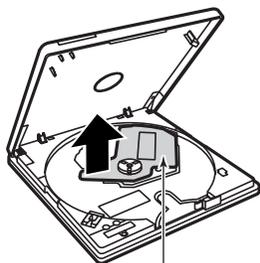
2 オープン

ディスクに記録中はロックされています。

3 ディスクカバー

重要

- ・ ディスクカバーを開くには「ディスクをセットする／取り出す」(→P.50)をご覧ください。
- ・ ご使用になる前に必ずポータブル CD/DVD ドライブのレンズ保護シートを取り外してください。

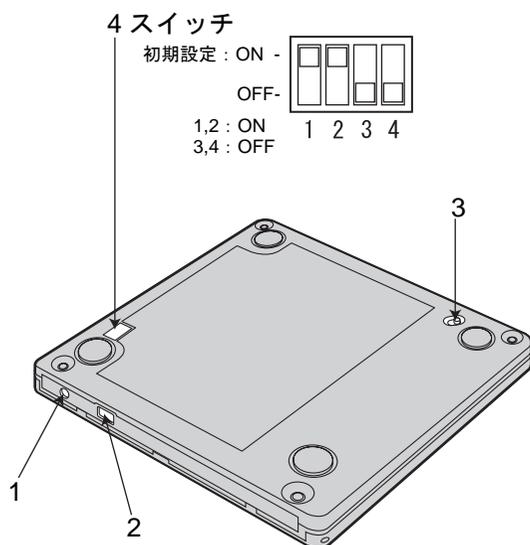


レンズ保護シート

POINT

- ・ オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。続けてご使用になる場合は、ディスクカバーを完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。

裏面



- 1 DC 入力端子
- 2 USB コネクタ
- 3 強制オープンレバー (→ P.52)
- 4 スイッチ

スイッチは初期設定で使用してください。

スイッチの設定を変更した場合、ポータブル CD/DVD ドライブ及びパソコン本体の故障の原因となります。

ポータブル CD/DVD ドライブの取り付け／取り外し

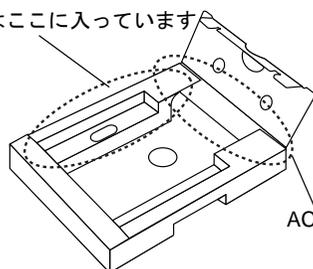
本体とポータブル CD/DVD ドライブの接続

接続は確実に行ってください。

重要

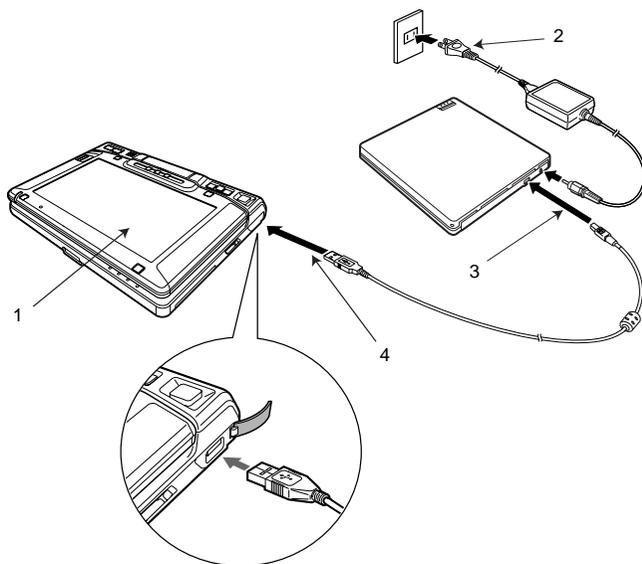
- ・ 添付のUSB ケーブル以外は使用しないでください（ポータブルCD/DVDドライブやパソコン本体を損傷するおそれがあります）。
- ・ ポータブルCD/DVDドライブは、ACアダプタ（ポータブルCD/DVDドライブ用）とACケーブル（ポータブルCD/DVDドライブ用）を接続しないと使うことができません。ポータブルCD/DVDドライブには、ポータブルCD/DVDドライブ用のACアダプタとACケーブルを必ず接続してください。ACアダプタとACケーブルは、ポータブルCD/DVDドライブの箱の次の場所に入っています。

AC ケーブルはここに入っています



AC アダプタはここに入っています

- ・ ポータブルCD/DVDドライブの箱に入っている取扱説明書はお使いになれません（掲載されている情報の一部が本パソコンの仕様と異なっています）。
- ・ ポータブルCD/DVDドライブの箱に入っているCDはお使いになれません。本パソコンにインストール済みのソフトウェアを使用するか、本パソコンに添付されている「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク1」をお使いください。
- ・ 長時間使用しないときは、節電のためACアダプタを電源コンセントから抜いておいてください。ACアダプタを接続した状態でも、約1Wの電力を消費しています（AC100V時）。
- ・ ACアダプタを電源コンセントに接続する場合は、ポータブルCD/DVDドライブ近くの容易に抜き差しできる電源コンセントをお使いください。
- ・ ポータブルCD/DVDドライブは、パソコン本体のUSBコネクタに直接接続してください。USBハブ経由での接続は動作保証いたしかねます。



- 1 パソコン本体を起動します。
- 2 ポータブル CD/DVD ドライブに AC アダプタを接続します。
- 3 付属の USB ケーブルのコネクタ（小さい方）を、ポータブル CD/DVD ドライブの USB コネクタに差し込みます。
- 4 片方の USB ケーブルのコネクタ（大きい方）をパソコンの USB コネクタに差し込みます。

ポータブル CD/DVD ドライブの電源が自動的に入り、インジケータが緑色に点灯します。

POINT

- ・ポータブル CD/DVD ドライブの電源は、パソコンの電源に連動して自動的にオン／オフされます。ただし、パソコン本体によっては、パソコン本体の電源を切っても、ポータブル CD/DVD ドライブの電源が切れない場合があります。
- ・USB ケーブルを抜き差しすることで、ポータブル CD/DVD ドライブの電源は自動的にオン／オフされます。

USB ケーブルの取り外し

重要

- ・USB ケーブルを取り外す前に、書き込みソフトでの記録やデータ・音楽の再生などの作業を終了し、あらかじめポータブル CD/DVD ドライブからディスクを取り出してください。

- 1 通知領域（タスクトレイ）の「取り外し」アイコンをクリックします。
メッセージが表示されます。
- 2 表示されたメッセージをクリックします（表示されるメッセージは状況により異なります）。
「USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します」
- 3 「USB 大容量記憶装置デバイス」は安全に取り外すことができます。」と表示されるのを確認して、「閉じる」ボタンまたは「OK」をクリックします。
- 4 USB ケーブルを抜きます。

POINT

- ・インジケータがオレンジ色に点灯中は、USB ケーブルや AC アダプタを抜かないでください。また、スタンバイ／休止状態に移行させないでください。
データ破壊のおそれやパソコンが正常に操作できなくなることがあります。パソコンの操作が正常にできなくなった場合には、Windows を再起動してください。
- ・ポータブル CD/DVD ドライブにディスクが入っている状態では USB ケーブルを抜かないでください。
- ・「DLA」をご使用の場合には、「マイコンピュータ」のドライブを右クリックし、「取り出し」を選択してから USB ケーブルを抜いてください。

ディスクをセットする／取り出す

ポータブル CD/DVD ドライブは電動オープン機構になっているため、電源が入っていないときはオープンボタンを押してもディスクカバーは開きません。

重要

- ・ディスクはデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音があることがあります。

POINT

- ・ディスクカバーは、ディスクのセット／取り出しの場合以外は閉めておいてください。ほこりが入り、故障の原因となります。
- ・レンズに手を触れないでください。故障の原因となります。

ディスクのセット

1 ポータブル CD/DVD ドライブをパソコンに接続します。

ポータブル CD/DVD ドライブの電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

POINT

- ・パソコン本体の電源の入れ方については、パソコン本体に添付のマニュアルをご覧ください。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクをセットします。

ディスクの中心付近をディスクが固定されるまで指で押さえてはめ込みます。



重要

- ・ディスクをきちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、ドライブ内部およびディスクを破損する原因となることがあります。

5 ディスクカバーを閉じます。

POINT

- ・ オープンボタンを押したり、記録が終了した場合などに、ディスクカバーのロックが解除されます。そのまま続けてご使用いただく場合は、ディスクカバーを一度完全に開いてからディスクカバーを閉じてください。
- ・ ポータブル CD/DVD ドライブで利用できる DVD-RAM ディスクは、カートリッジなしのタイプです。TYPE2 または TYPE4 の DVD-RAM ディスクは、カートリッジからディスクを取り出してご使用ください。

ディスクの取り出し

重要

- ・ ディスクの取り出し操作をする前に、ポータブル CD/DVD ドライブのインジケータがオレンジ色に点灯していないことを確認してください。

POINT

- ・ データ書き込み中（インジケータがオレンジ色に点灯中）は、ディスクカバーがロックされているため、書き込みが終了するまでディスクカバーを開けることはできません。
- ・ 「DLA」をご使用の場合には、次の方法で取り出してください。
 1. 「マイコンピュータ」のドライブアイコンを右クリックします。
 2. 表示されたメニューから「取り出し」を選択します。

1 ポータブル CD/DVD ドライブをパソコンに接続します。

ポータブル CD/DVD ドライブの電源は、パソコン本体の電源に連動して自動的にオン／オフされます。

2 オープンボタンを押します。

ディスクカバーが少し開きます。

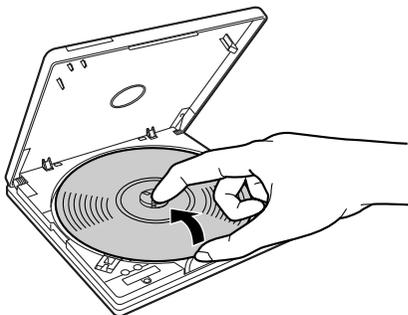
3 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

4 ディスクを取り出します。

中央部分を押さえながら、端の方からつまみあげるようにして、取り出します。

POINT

- ・ ポータブル CD/DVD ドライブにディスクが入っている場合は、使用中のソフトウェアからディスクの「取り出し」を選択してもディスクカバーを開くことができます。



ディスクが取り出せないときは

データ書き込み中の故障や停電などでオープンボタンを押してもディスクカバーが開かない場合は、ディスクカバーロックを強制的に解除し、ディスクカバーを開けることができます。

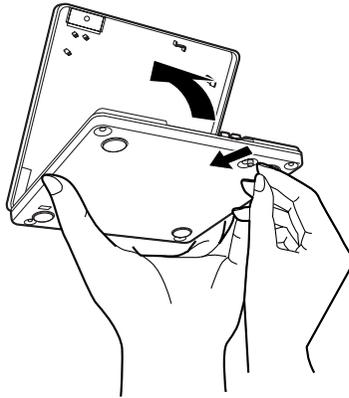
1 ポータブルCD/DVDドライブ裏側の強制オープンレバーをスライドさせます。

ディスクカバーが少し開きます。

2 ディスクカバーを持ち上げて開きます。

重要

- ・ ディスクの回転が止まらないときは、ACアダプタをコンセントから抜いて、完全に回転を止めてください。
回転中にディスクカバーを開けるとディスクが外れて飛び出し、ディスクやポータブルCD/DVDドライブを破損したり、けがの原因となる可能性があります。



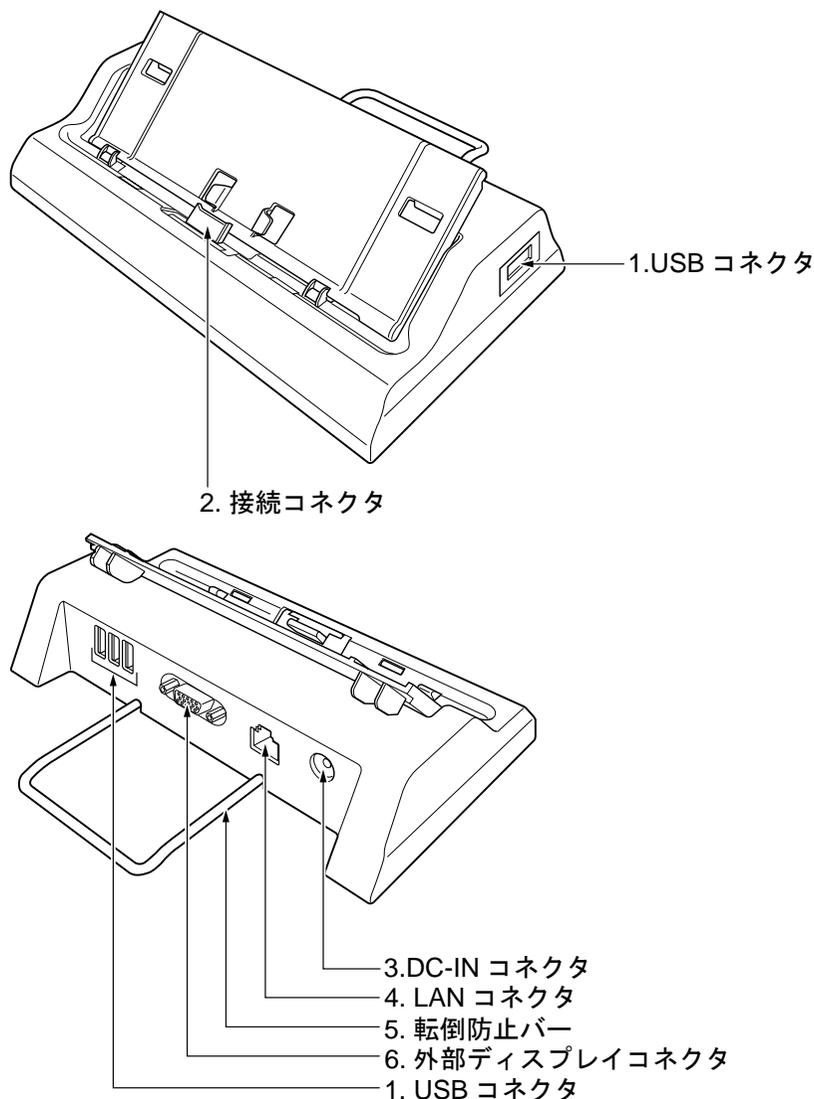
7 ポートリプリケータについて

重要

- ・ポートリプリケータはご購入時に選択された方のみお使いになれます。
- ・ポートリプリケータをお使いになる場合は、必ずポートリプリケータの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続してください。
- ・ポートリプリケータをお使いになる場合は、本パソコンの電源、およびポートリプリケータに接続している周辺機器の電源を切った状態で、取り付け、取り外しを行ってください。

ポートリプリケータ

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- ・各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ・ポートリプリケータ接続時には、パソコン本体の AC アダプタ、およびパソコン本体右側面の USB コネクタはお使いになれません。

1 USB コネクタ ()

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ・ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

2 接続コネクタ

ポートリプリケータ接続コネクタ / CRT/LAN 変換コネクタに接続します。

3 DC-IN コネクタ ()

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

4 LAN コネクタ ()

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

「機能」 - 「LAN について」 (→ P.94)

5 転倒防止バー

パソコンをポートリプリケータに接続したときに、パソコンが転倒するのを防止します。

6 外部ディスプレイコネクタ ()

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」 - 「外部ディスプレイについて」 (→ P.66)

ポートリプリケータを取り付ける

注意



- ・パソコン本体にポートリプリケータを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

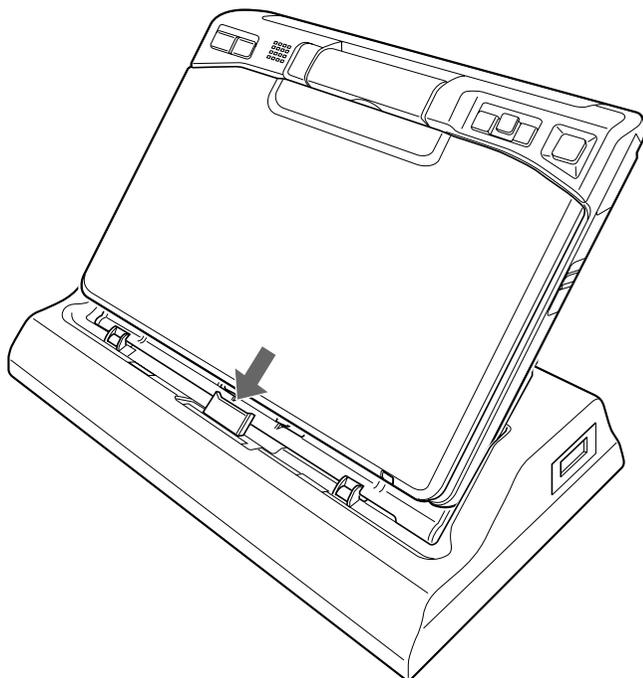
重要

- ・ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体左側面の DC-IN コネクタから AC アダプタを、パソコン本体前面の CRT/LAN 変換コネクタから CRT/LAN 変換ケーブルを取り外してください。破損するおそれがあります。

1 ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

2 ポートリプリケータ接続コネクタをパソコン本体前面のポートリプリケータ接続コネクタ / **CRT/LAN 変換コネクタ**に合わせ取り付けます。

パソコン本体を、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。

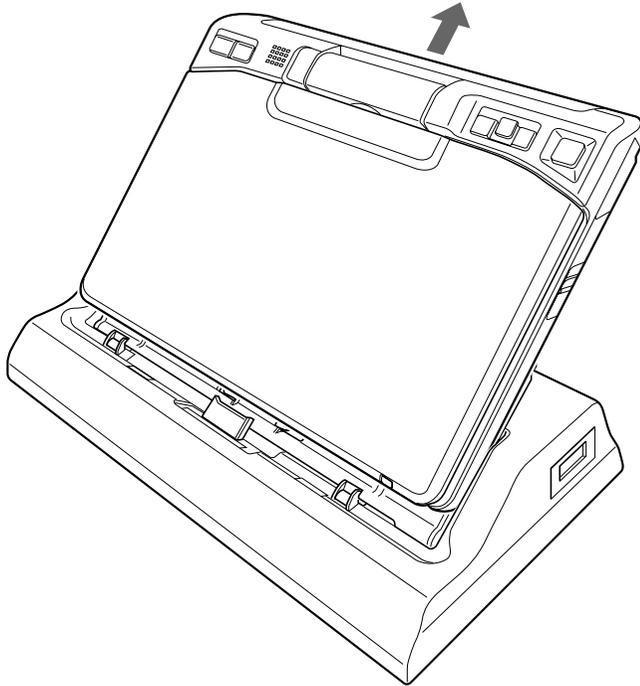


重要

- ・ポートリプリケータに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ・本パソコンを持ち運ぶ場合は、ポートリプリケータを必ず取り外してください。ポートリプリケータを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタが破損するおそれがあります。

ポートリプリケータを取り外す

- 1** 本パソコンの電源を切ります。ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。
- 2** ポートリプリケータを取り外します。
パソコン本体を持ち上げて、ポートリプリケータを取り外します。



8 コンパクトフラッシュカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、コンパクトフラッシュカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- ・ 強い衝撃を与えないでください。
- ・ 重い物を載せないでください。
- ・ コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・ 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ・ コンパクトフラッシュカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでコンパクトフラッシュカードが使えなくなります。フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

コンパクトフラッシュカードをセットする

⚠ 注意



- ・ コンパクトフラッシュカードをセットするときは、CFカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

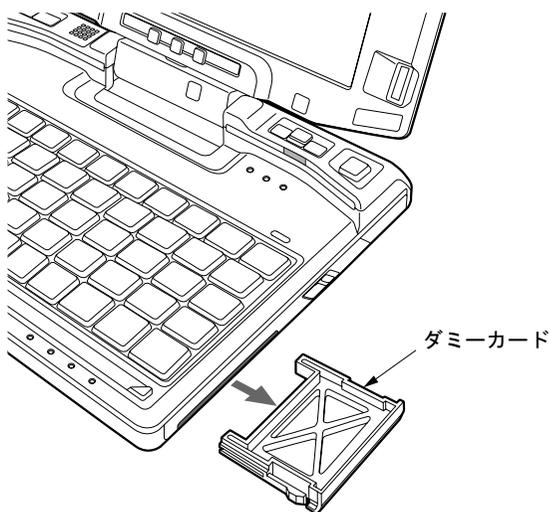
👉 重要

- ・ コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・ コンパクトフラッシュカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。
- ・ コンパクトフラッシュカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧ください。必要に応じてドライバをインストールしてください。

1 CF カードスロットにセットされているダミーカードを引っ張り、ダミーカードを取り出します。

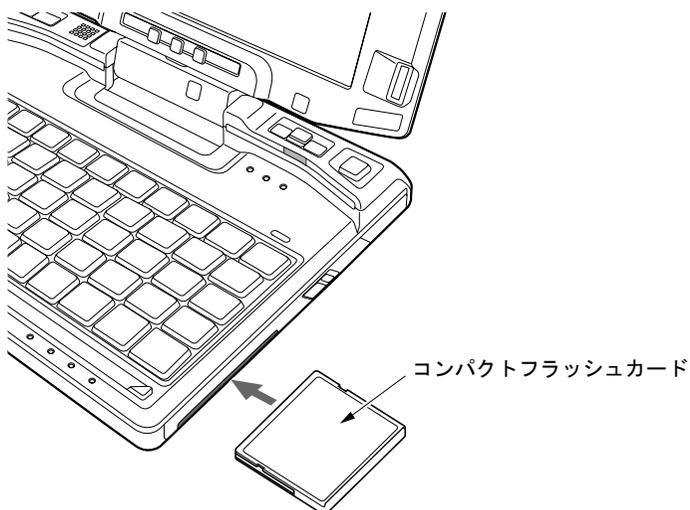


POINT

- ・取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

2 パソコン本体右側面の CF カードスロットに、コンパクトフラッシュカードをセットします。

コンパクトフラッシュカードの製品名を上にしてCFカードスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ・うまくセットできない場合には一度コンパクトフラッシュカードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。また、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルもご覧ください。

- ・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードをお使いの場合、コンパクトフラッシュカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶついたりしないでください。破損の原因となります。
- ・コンパクトフラッシュカードの種類によっては、CFカードスロットからコンパクトフラッシュカードが飛び出した状態でセットされるものがあります。コンパクトフラッシュカードの飛び出した部分をぶついたりしないでください。破損の原因となります。

POINT

- ・コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、お使いになるコンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧ください。

コンパクトフラッシュカードを取り出す

注意



- ・コンパクトフラッシュカードの使用終了直後は、コンパクトフラッシュカードが高温になっていることがあります。コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



- ・コンパクトフラッシュカードを取り出すときは、CFカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

- ・コンパクトフラッシュカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。コンパクトフラッシュカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ・コードやケーブルを接続して使うコンパクトフラッシュカードを取り出す場合、コンパクトフラッシュカードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ・コンパクトフラッシュカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ・コンパクトフラッシュカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。コンパクトフラッシュカードのマニュアルで確認してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- ・通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックしてコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ・コンパクトフラッシュカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、コンパクトフラッシュカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[コンパクトフラッシュカード] を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

- ・「[コンパクトフラッシュカード]」には、お使いのコンパクトフラッシュカードの名称が表示されます。
- ・「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、コンパクトフラッシュカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

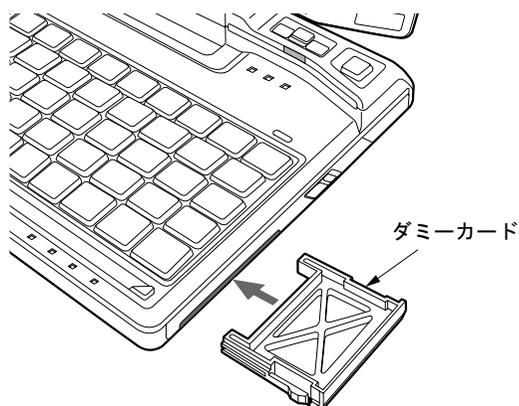
3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 コンパクトフラッシュカードを引き出して、取り出します。



5 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを CF カードスロットにしっかり差し込みます。



9 SDメモリーカードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、SDメモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ・ 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- ・ 強い衝撃を与えないでください。
- ・ 重い物を載せないでください。
- ・ コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- ・ 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ・ すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ・ miniSDカードやmicroSDカードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。miniSDカードやmicroSDカードは、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、miniSDカードやmicroSDカードが取り出せなくなります。
- ・ 2GBを超えるSDメモリーカードには対応していません。2GBを超える場合は、SDHCカードをお使いください。
- ・ SDメモリーカード、SDHCカード、miniSDカード、またはmicroSDカードは、著作権保護機能(CPRM)に対応しています。
このパソコンでは「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」というソフトでSD-Audio形式でファイルの読み書きを行うときに、SDメモリーカード、miniSDカード、またはmicroSDカードの著作権保護機能(CPRM)が有効になります。
「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」については次のページをご覧ください。
「MOOCS PLAYER」(<http://moocs.com/>)
「SD-Jukebox」(<http://panasonic.jp/support/software/sdjb/index.html>)
- ・ SDメモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、SDメモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ・ SDメモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでSDメモリーカードが使えなくなります。フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

SD メモリーカードをセットする

⚠ 注意



- ・SDメモリーカードをセットまたは取り出すときは、SDメモリーカードスロットに指を入れしないでください。
けがの原因となることがあります。

👉 重要

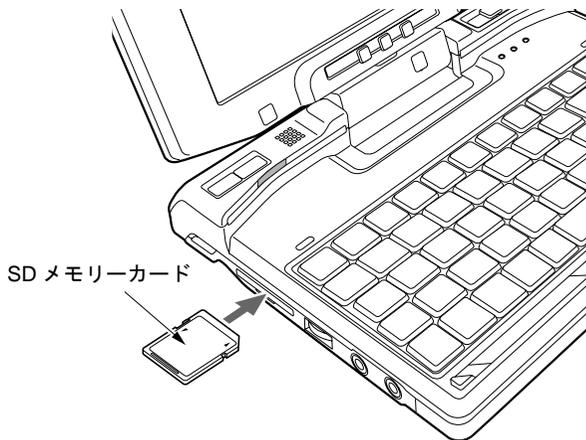
- ・SDメモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SDメモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

🔍 POINT

- ・SDメモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SDメモリーカードのマニュアルをご覧ください。

1 パソコン本体左側面のSDメモリーカードスロットに、SDメモリーカードをセットします。

SDメモリーカードの製品名を上にしてSDメモリーカードスロットにしっかり差し込みます。



👉 重要

- ・書き込み禁止の状態のSDメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、SDメモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

🔍 POINT

- ・「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されることがあります。「キャンセル」をクリックしてください。

SD メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- ・SDメモリーカードをセットまたは取り出すときは、SDメモリーカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

👉 重要

- ・SDメモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。SDメモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

🔍 POINT

- ・通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップしてSDメモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ・SDメモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、SDメモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[SDメモリーカード] を安全に取り外します」をクリックします。

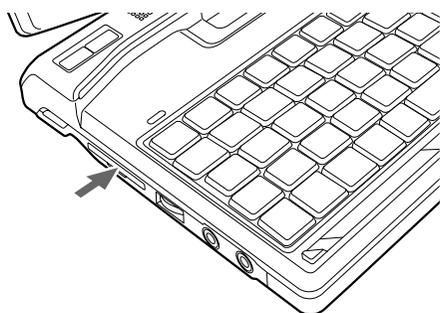
🔍 POINT

- ・「[SDメモリーカード]」には、お使いのSDメモリーカードの名称が表示されます。
- ・「デバイス' 汎用ボリューム」を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、SDメモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 SDメモリーカードを一度押します。

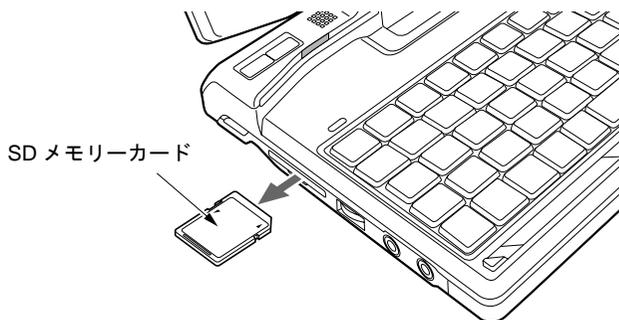
SDメモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。



重要

- ・ SDメモリーカードスロットからSDメモリーカードを取り出す場合は、SDメモリーカードを強く押さないでください。指を離したときSDメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
また、SDメモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、SDメモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ・ アダプタにセットしたメモリーカードをダイレクトメモリースロットから取り出す場合は、必ずアダプタごと取り出してください。
- ・ SDメモリーカードを取り出す場合は、SDメモリーカードスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。SDメモリーカードが飛び出すと、けがの原因となる場合があります。

5 SDメモリーカードを取り出します。



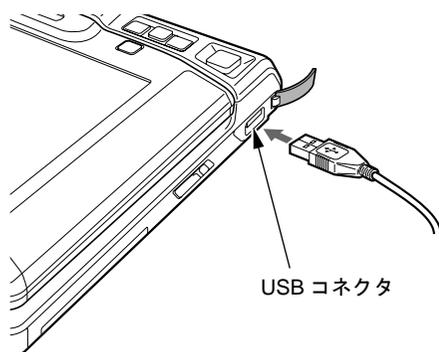
10 プリンタについて

👉 重要

- ・プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- ・プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

接続について

USB コネクタの場合



1 パソコン本体のUSBコネクタに、ケーブルの片方のコネクタを接続します。
USB コネクタはパソコン本体右側面にあります。
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 初めて接続するプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

🔍 POINT

ご購入時ポートリプリケータを選択された方のみ、USB 接続のプリンタはポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

11 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、CRT/LAN 変換ケーブルの外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

警告



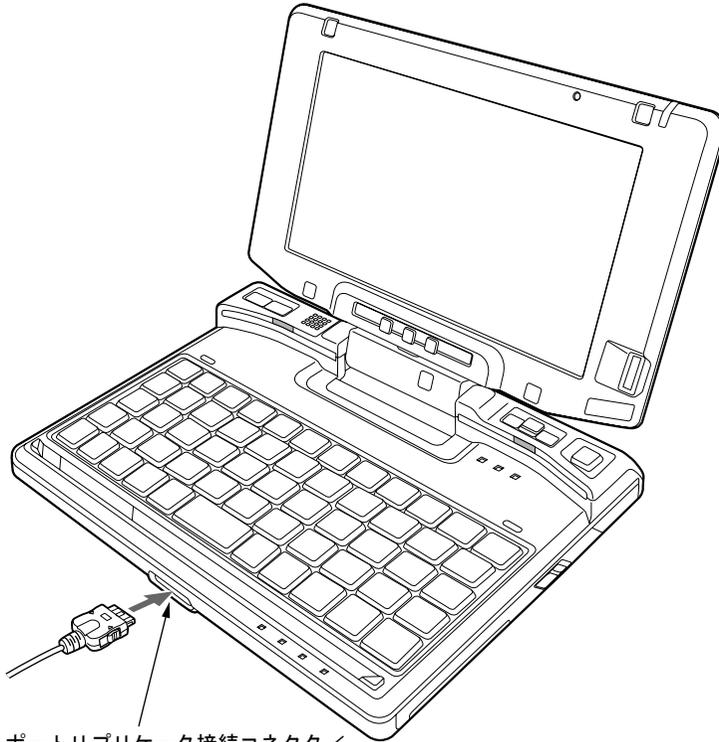
- ・外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

注意



- ・ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→『取扱説明書』)。
- 2 パソコン本体前面のポートリプリケータ接続コネクタ / CRT/LAN 変換コネクタにCRT/LAN変換ケーブルを接続します。

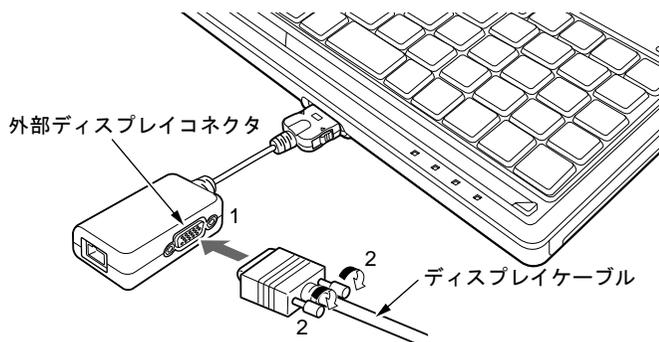


ポートリプリケータ接続コネクタ /
CRT/LAN 変換コネクタ

- 3 CRT/LAN変換ケーブルの外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。



POINT

- ・外部ディスプレイは、ポートリプリケータの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。

4 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

6 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- ・外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
- ・外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットは離して使用してください。

7 画面の表示を切り替えます。

Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えることができます。また、【Fn】 + 【A】 キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることもできます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→P.82) をご覧ください。

12 液晶ディスプレイの回転について

ここでは、液晶ディスプレイの回転の仕方について説明します。
本パソコンは、ノートパソコンモード、またはタブレットモードの両方の状態でお使いになれます。

次の手順でモードの切り替えが行えます。

重要

- ・液晶ディスプレイを回転させるときは、パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置いてください。

POINT

- ・本パソコンは、通常のノート型パソコンとしてキーボードとスティックポイントで操作するほかに、液晶ディスプレイを 180° 回転させてキーボード側に折りたたみ、付属のペンで操作することができます。通常の状態をノートパソコンモード、ディスプレイを回転して、たたんだ状態をタブレットモードと呼びます。

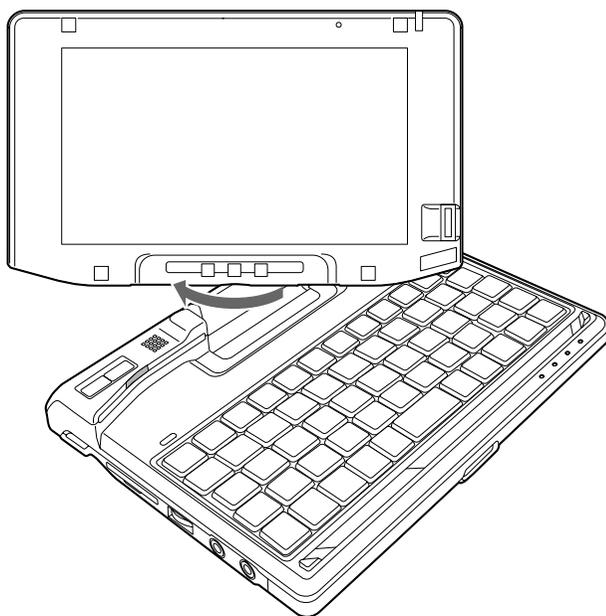
1 液晶ディスプレイを開きます。

液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。

重要

- ・液晶ディスプレイは 90° の角度に開いてください。それ以外の角度では、液晶ディスプレイを回転させることができません。無理に回転させようとすると液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

2 液晶ディスプレイの両端を持ち、矢印の方向に 180° 回転させます。



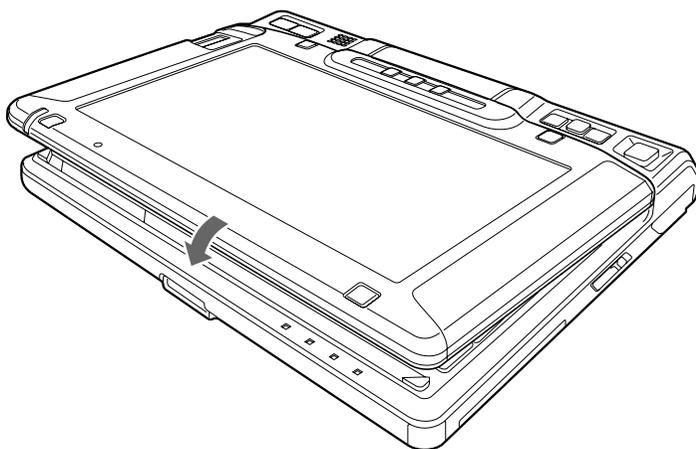
重要

- ・液晶ディスプレイを 180° 以上、または逆方向に回転させることはできません。180° 以上、または逆方向に回転させようと無理な力を加えないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

POINT

- ・画面を回転させるときは、AC アダプタケーブル、LAN ケーブル、ディスプレイケーブルが絡まないようにして回転させてください。
- ・タブレットモードからノートパソコンモードへ戻すには手順 2 で逆方向に回転させてください。

3 液晶ディスプレイを閉じます。



重要

タブレットモードで使用する場合、次の点にご注意ください。

- ・手に持って使用する場合、AC アダプタを取り外してください。
- ・手に持って使用する場合、吸気孔や排気孔をふさがないようにしてください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- ・液晶ディスプレイがしっかり閉じた状態でお使いください。

13 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告



- ・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
- ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

👉 重要

- ・液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しついたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ・液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ・化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くホコリを取り除いてください。その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。圧縮空気などは使わないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

3

第 3 章 機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連	74
2 音量の設定	89
3 通信	94
4 ドライブ関連	98
5 省電力	99

1 ディスプレイ関連

液晶ディスプレイの明るさ設定

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

重要

- ・外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

明るさを設定する

本パソコンは、ACアダプタを使っているときと、バッテリーで使っているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。

ご購入時には、ACアダプタで使っているときに明るくなり、バッテリーで使っているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。また、OS、ドライバや「IndicatorUtility」(→P.125)によって、それぞれの電源の状態で保存されます。お使いの環境に合わせて、明るさを変更してください。

明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。

【Fn】+【S】キーを押すと暗く、【Fn】+【D】キーを押すと明るくなります。

調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

POINT

- ・次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
 - ・本パソコンを再起動した直後
 - ・スタンバイまたは休止状態からレジュームした直後
 - ・ACアダプタを取り付け、取り外した直後

インテル® ディスプレイ省電テクノロジー

本パソコンには、インテル® ディスプレイ省電テクノロジーが搭載されています。インテル® ディスプレイ省電テクノロジーを有効にすると、バッテリー運用時、液晶ディスプレイの消費電力を節約することができます。

しかし、画面の明暗の変化に合わせて、液晶ディスプレイの明るさやコントラストを変更させるため、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。

このような場合は、次の手順で設定を無効にしたり、変更したりすることで、これらの現象を抑えることができます。

POINT

- ・インテル[®] ディスプレイ省電テクノロジーは、本パソコンをバッテリーで使うときに液晶ディスプレイにのみ働く機能です。
AC アダプタで使うときや、外部ディスプレイに表示しているときは働きません。このようなときも、液晶ディスプレイの画面がちらついて見えたりする場合には、本機能以外の原因が考えられます。
- ・インテル[®] ディスプレイ省電テクノロジーが働いている状態で、液晶ディスプレイの明るさを変更しても、明るさの変化が少なくなる場合があります。

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。
- 7 「電源設定」をクリックします。
「電源設定」ウィンドウが表示されます。
- 8 「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」の設定を変更します。
 - 有効にする場合
「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」にチェックを付け、その下のつまみを左右にドラッグして、消費電力を調整します。
「画質最高」側にする则画面表示のクオリティが優先され、「バッテリー寿命最長」側にする则消費電力の節約が優先されます
 - 無効にする場合
「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」のチェックを外します。
- 9 設定が完了したら、「適用」をクリックします。
- 10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

全画面表示と通常表示の切り替え

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

注意事項

- ・ コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 次の操作を行います。
 - 液晶ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
 - 外部ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をクリックして、チェックを付けます。
 - 同時表示の場合
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。
 - マルチモニタ表示の場合
「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ・ 同時表示、またはマルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・ プライマリ：ノートブック
 - ・ セカンダリ：PC モニタ

- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

液晶ディスプレイ表示、外部ディスプレイ表示の場合は、手順 8 に進んでください。

7 「ノートブック」または「PC モニタ」から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをクリックします。

8 「ディスプレイの拡張」で、お使いになる設定を選択します。

- 全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。
- デスクトップの中央
デスクトップが通常表示になります。
- アスペクト比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

 **POINT**

- ・「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

9 「適用」をクリックします。

 **POINT**

- ・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

 **POINT**

- ・ デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。
 - ・ 画面全体に拡張
画面全体が縦長に表示されます。
 - ・ アスペクト比を維持したまま拡張
縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

ローテーション機能

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面の向きを 90 度単位で変更できます。

注意事項

- ・ ローテーション機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）を終了してください。
- ・ ローテーション機能を使用中に、ハードウェア アクセラレータの設定を変更しないでください。
- ・ ローテーション機能を使用中は、ソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）によっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- ・ Windows の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- ・ 画面のプロパティにおいて、解像度をパソコンのパネル解像度よりも低い解像度に設定してローテーション機能をお使いになると、解像度と色数の設定は正しく表示されません。
- ・ ローテーション機能をお使いの場合、USB マウスの動作は画面の回転に追従しません。
- ・ ローテーション機能を使用中は、画面の解像度および色数を変更しないでください。解像度および色数を変更する場合は、画面を元の状態（標準（0 度））に戻してから変更してください。
- ・ ローテーション機能を使用中にマウスポインタが消えてしまう場合があります。その場合、「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックして、「ポインタ」タブで「配色」を「(なし)」に設定してください。また、「動作」タブで「ボタンの軌跡」の「表示する」のチェックも外してください。
- ・ ローテーション機能を使用中に省電力機能を使用すると、壁紙が正しく表示されない場合があります。その場合は、「最新の情報に更新」を行いデスクトップ画面を再表示してください。
- ・ ローテーション機能を使用中に Direct3D や OpenGL を使用したスクリーンセーバーをお使いになると、省電力機能が正常に動作しません。

「画面のプロパティ」で画面の向きを変更する

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3** 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 4** 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

5 「回転」の「回転を有効にする」がチェックされていることを確認します。

6 表示方法にあわせて、チェックを付けます。

- ・ 0 : 0 度
- ・ 90 : 左 90 度回転
- ・ 180 : 180 度反転
- ・ 270 : 右 90 度回転

7 「適用」をクリックします。

POINT

- ・ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。
- ・ 画面の角度を「90」または「270」に変更できない場合は、ディスプレイドライバのウィンドウから「モニタ」タブをクリックし、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

8 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

ホットキーを使用して画面の向きを変更する

標準 (0 度) : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Fn】 + 【↑】 キー

左 90 度回転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Fn】 + 【←】 キー

180 度反転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Fn】 + 【↓】 キー

右 90 度回転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Fn】 + 【→】 キー

POINT

- ・ 上記は出荷時の設定です。ホットキーの割り当ては、「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」で、変更することができます。

「ローテーション」ボタンで画面の向きを変更する

「ローテーション」ボタンを設定すると、デスクトップの画面の向きを簡単に変更することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックします。

プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。

2 「ボタン設定」をクリックします。

「ボタン設定」ウィンドウが表示されます。

3 「ローテーションボタンの設定」をクリックします。

「ローテーションボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

4 1～4を設定し、「OK」をクリックします。

POINT

- ・ご購入時の設定は次のとおりです。「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、縦画面表示と横画面表示を繰り返します。
 1. 「横（プライマリ）」（横画面で0度）
 2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で270度回転した状態）
 3. 「（なし）」、または「何もしない」
 4. 「（なし）」、または「何もしない」
- 設定例）1～4を次のように設定すると、「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、90度ずつ回転して表示されます。
 1. 「横（プライマリ）」（横画面で0度）
 2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で270度回転した状態）
 3. 「横（セカンダリ）」（横画面で180度回転した状態）
 4. 「縦（セカンダリ）」（縦画面で90度回転した状態）

5 「適用」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。色数は「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

POINT

- ・外部ディスプレイの接続方法については、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.66）をご覧ください。
- ・「画面のプロパティ」ウィンドウで解像度、色数を選択／変更しても、再起動時や、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などには、自動的にプロファイルで設定されている解像度、色数に変更されます。「画面のプロパティ」ウィンドウの変更をプロファイルに保存するには、次の手順で富士通タブレットコントロールの設定を変更します。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「富士通タブレットコントロール」をクリックします。「富士通タブレットコントロール」ウィンドウが表示されます。
 4. 必要に応じて「富士通タブレットコントロール」ウィンドウの設定を変更します。設定方法については、「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

■画面の向きが横の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ注4	外部ディスプレイ注4
800 × 600	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	中 (16 ビット) / 最高 (32 ビット) 注1	
1024 × 600		—	
1024 × 768 注2注3		中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	
1280 × 768 注2注3			
1280 × 1024 注2注3		—	
1400 × 1050 注2注3		—	
1600 × 1200 注2注3		—	

注1: 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2: この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3: 液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注4: 各解像度はお使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になれます。ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

■画面の向きが縦の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ
600 × 800	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	—	
600 × 1024		—	
768 × 1024 注2注3		—	
768 × 1280 注2注3		—	
1024 × 1280 注2注3		—	
1050 × 1400 注2注3		—	
1200 × 1600 注2注3		—	

注1: 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2: この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3: 液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注意事項

- 通常は 640 × 480 の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- 液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように設定してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 - デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

2. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
3. 「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

・「このモニタでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。

- ・ 解像度を 800 × 600 に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- ・ 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種種の「外部ディスプレイの走査周波数について」（●▶ P.88）の表以外の周波数を使用することはできません。
- ・ 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ・ 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。

表示装置の切り替え

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.66）をご覧ください。

注意事項

- ・ 表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
 - Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- ・ 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ・ 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- ・ 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。

- ・液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- ・BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」－「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください（設定方法は、「BIOS」－「メニュー詳細」（→ P.142）をご覧ください）。
- ・外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り替えると、表示デバイスが切り替わることがあります。
また、コマンドプロンプトを終了したときやウィンドウ表示に切り替えたときに、表示デバイスが切り替わることがあります。この現象はドライバおよび OS での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。
- ・液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ・画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。
- ・コマンドプロンプトを全画面表示にしてお使いの場合は、【Fn】 + 【A】 キーでの表示装置の切り替えができません。この場合は、一度ウィンドウ表示にしてから表示装置を切り替えてください。
- ・動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているソフトウェアを終了させてから、表示装置を変更してください。

「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3** 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4** 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。

5 次の操作を行います。

■ 1台のディスプレイに表示する場合

「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。

■ 同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

同時表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。

- ・ プライマリ：ノートブック
- ・ セカンダリ：PC モニタ

「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

6 「適用」をクリックします。

ディスプレイが切り替わります。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ・ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
 - ・ 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【A】キーを押して、表示先を切り替えてください。
 - ・ 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。
 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
 3. 「モニタ」タブをクリックします。
 4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
 5. 「OK」をクリックします。
- ・ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

キーボードを使用する場合

表示装置を切り替えるには、【Fn】 + 【A】キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき【A】キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示） → 液晶ディスプレイ…

POINT

- ・ キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- ・ コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、【Fn】+【A】キーを使用して表示デバイスを切り換えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り換えてから表示デバイスを切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、2台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できます。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

- ・ マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- ・ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- ・ マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- ・ マルチモニタ機能の注意
 - ・ 2台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
 - ・ セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - ・ 次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - ・ 液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・ コマンドプロンプトのフルスクリーン表示
 - ・ 一部のスクリーンセーバー
 - ・ 動画再生画面のフルスクリーン表示
 - ・ アクセラレータ機能を使用時の動画再生画面
- ・ 色数についての注意
 - ・ プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
 - ・ 「中」または「最高」に設定してください。

POINT

- ・ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。
- ・ マルチモニタ使用時に外部ディスプレイでペンはお使いになれません。あらかじめマウスを接続して操作してください。

マルチモニタの設定

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。

3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。

5 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

6 「プライマリデバイス」が「ノートブック」、「セカンダリデバイス」が「PC モニタ」であることを確認します。

 **POINT**

・「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

7 「適用」をクリックします。

 **POINT**

・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

8 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。

4 「OK」をクリックします。

表示できる色数と解像度

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

色数	画面の向き	プライマリの解像度	セカンダリの解像度 ^{注4}			
			800 × 600	1024 × 768	1280 × 768	1280 × 1024
中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) ^{注1}	横	800 × 600	○	○	○	○
		1024 × 600	○	○	○	○
		1024 × 768 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		1280 × 768 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		1280 × 1024 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		1400 × 1050 ^{注2 注3}	○	○	○	○
	1600 × 1200 ^{注2 注3}	○	○	○	○	
	縦	600 × 1024	○	○	○	○
		768 × 1024 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		768 × 1280 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		1024 × 1280 ^{注2 注3}	○	○	○	○
		1050 × 1400 ^{注2 注3}	○	○	○	○
1200 × 1600 ^{注2 注3}		○	○	○	○	

注1：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するデザイニング機能を利用しています。

注2：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3：液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。液晶ディスプレイにはディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注4：各解像度はお使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になれます。ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ・ プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用する場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・ プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用する場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、DVD-VIDEO を再生しないでください。
- ・ マルチモニタ機能使用時に Windows を再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを 85Hz 以下に設定してください。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、【Fn】+【A】キーを使用して、表示装置を切り替えることはできません。

外部ディスプレイの走査周波数について

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。
選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 768	47.8	60
	60.3	75
	68.6	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。「リフレッシュレート」とは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、ディスプレイイラストからリフレッシュレートを変更するモニタアイコンを選択します。
（プライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。）
 3. 「詳細設定」をクリックします。
お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
 4. 「モニタ」タブをクリックします。
 5. 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
 6. 「適用」をクリックします。
 7. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、音量ボリューム、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- ・スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

音量ボリュームで調節する

音量ボリュームで調節する

本体側面の音量ボリュームで音量を調節できます。手前側にたおすと小さく、奥側にたおすと大きくなります。また、音量ボリュームを押すとミュート（消音）になります。

POINT

- ・音量ボリュームで音を大きくしても音が聞こえない場合は、スピーカーの状態を確認してください。スピーカーがONでも音が聞こえない場合は、音量を調節する画面でミュート（消音）に設定していないか確認してください（→P.89）。

画面上の音量つまみで設定する

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ・通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定について

再生時の音量設定方法

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 バランスや音量などを調節します。

録音時の音量設定方法

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 録音方法に応じて「ミキサーデバイス」を選択し、「OK」をクリックします。

内蔵マイクを使う場合は「Realtek Digital Microphone」を選択し、マイク・ラインイン兼用端子に接続した機器を使う場合は「Realtek HD Audio Input」を選択してください。

4 バランスや音量などを調節します。

POINT

- ・ 録音するためのソフトウェアを起動する前に、録音に使用するデバイスを選択してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
 4. 「オーディオ」タブをクリックします。
 5. 「録音」のオーディオデバイスを選択します。

内蔵マイクを使う場合は「Realtek Digital Microphone」を選択し、マイク・ラインイン兼用端子に接続した機器を使う場合は「Realtek HD Audio Input」を選択してください。
 6. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
- ・ 音量を設定しても内蔵マイクの録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するウィンドウでマイク音量を設定してください。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」で「Realtek Digital Microphone」を選択し、「OK」をクリックします。

3. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
4. 「マイク」の「トーン」をクリックします。
5. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

各機種の設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。

POINT

- ・ 各項目で表示される名称や順番はお使いの状況により異なる場合があります。

・ 再生時の音量設定

－：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
マスタ音量	表示	－	内蔵スピーカー、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の再生音量（ヘッドホン設定時）
WAVE	表示	－	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ	表示	－	本パソコン内蔵のソフトウェア MIDI の再生音量
CD プレーヤー ^{注1}	表示	－	音楽 CD の再生音量
Line Out	表示	－	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の再生音量（ライン出力設定時）
ライン音量	表示	－	マイク・ラインイン兼用端子の再生音量（ライン入力設定時）
マイク	表示	ミュート	マイク・ラインイン兼用端子の再生音量（マイク入力設定時）
PC Beep ^{注2}	表示	－	BEEP 音の再生音量

注1：「Windows Media Player」などの一部のソフトウェアでは、「WAVE」で音楽 CD の音量を調整します。

注2：スタンバイや休止状態に移行するときのビーブ音は設定できません。BIOS セットアップの設定が有効となります。音量を変更する場合は、BIOS セットアップの「詳細」－「各種設定」－「音量設定」で設定してください。詳しくは、「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」（→P.137）をご覧ください。

・ 録音時の音量設定（内蔵マイク除く）

ご購入時、「録音コントロール」ウィンドウの「選択」は「マイク」に設定されています。

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
マイク	表示	マイク・ラインイン兼用端子の録音音量（マイク入力設定時）
ライン音量	表示	マイク・ラインイン兼用端子の録音音量（ライン入力設定時）
ステレオミキサー	非表示	再生音全体の録音音量

・内蔵マイクの録音時の音量設定

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
マイク	表示	内蔵マイクの録音音量

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時に「ヘッドホン」、「マイク入力」に設定されています。設定を変更することで「ライン出力」、および「ライン入力」として使用することができます。次の手順に従って、設定を変更してください。

重要

- ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続していないときは、切り替えができません。
- ・マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続するときは、外部機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

- 1 機能を切り替えたい端子に機器を接続します。**
端子については、「各部名称」－「各部の名称と働き」（→P.10）をご覧ください。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「Realtek HD オーディオ設定」の順にクリックします。**
- 4 「オーディオ I/O」タブをクリックします。**
- 5 切り替えたい端子の左側にあるアイコンをクリックします。**
「デバイスタイプ」ウィンドウが開きます。
- 6 使用するデバイスにチェックを付けます。**
 - ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合
ヘッドフォン：ヘッドホン出力として動作します。内蔵スピーカーがミュートされます。音量は「マスタ音量」で調整します。
ライン出力：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーはミュートされません。音量は「Line Out」で調整します。
 - マイク・ラインイン兼用端子の場合
マイク入力：マイク入力として動作します。
ライン入力：ライン入力として動作します。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ・次の手順でジャック検出を有効にすると、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するだけで、「デバイスタイプ」ウィンドウが自動で開きます。
 1. 手順 4 の「オーディオ I/O」ウィンドウから、「アナログ」の右側にある「コネクタ設定」ボタンをクリックします。
「コネクタ設定」ウィンドウが開きます。
 2. 「デバイスを挿したときのポップアップダイアログを有効にします。」にチェックを付け、「OK」をクリックします。

3 通信

重要

- ・通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください（→ P.107）。

LAN について

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものがが必要です。

- ・ブロードバンドモデム
ADSL モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。
- ・ルーター
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに内蔵されている場合もあります。なお、1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ・ハブ
ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに内蔵されている場合もあります。1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ・LAN ケーブル（ストレートタイプ）
お使いになるネットワークのスピードに合ったものがが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。1000BASE-T の通信を行うためには、エンハンストカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- ・10BASE-T（IEEE 802.3 準拠）
- ・100BASE-TX（IEEE 802.3u 準拠）

本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」（→ P.126）が添付されています。あわせてご利用ください。

警告



- ・雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。

感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意



- ・LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- ・LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します(→『取扱説明書』)。

2 CRT/LAN 変換ケーブルをパソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタ／CRT/LAN変換コネクタに接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。パソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタ／CRT/LAN 変換コネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.10) をご覧ください。

3 LAN ケーブルを CRT/LAN 変換ケーブルの LAN コネクタに接続します。

CRT/LAN 変換ケーブルについては「各部名称」－「CRT/LAN 変換ケーブル」(→ P.18) をご覧ください。

4 LAN ケーブルをネットワーク機器に接続します。

手順 3 で接続したケーブルのもう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続し、ネットワーク機器の電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいため、AC アダプタのご使用をお勧めします。

重要

- ・ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします(→ P.99)。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ・ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

POINT

- ・LAN コネクタから LAN ケーブルのプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について

無線 LAN を使うと、LAN ケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠した無線 LAN 機器と接続することができます。

無線 LAN については、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認のうえ、実行してください。

通信を行うための注意

本パソコンの無線 LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- ・本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) の無線 LAN は、電波法の定めにより屋外では使用できません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
- ・最大で 54Mbps 無線 LAN に対応しています。
表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) (5GHz 帯) では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径 25m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- ・本パソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。内蔵無線 LAN アンテナについては、「各部名称」 - 「各部の名称と働き」 (→ P.10) をご覧ください。
また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体 (電気を通しやすいもの) でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- ・本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、無線 LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance®」が定義する、無線 LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- ・本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠の無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯 (2.4GHz 帯) を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
■ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには
次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
 - Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - 無線 LAN または Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の一方の電源を切る。
(Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合や、単独で電源を切れないものを除く)
 - 無線 LAN または Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のいずれかの電波を、ユーティリティを使って停止する。
 - 無線 LAN の IEEE 802.11a (5GHz 帯) を利用する (ただし利用できるのは屋内のみ)。

- LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- 有線 LAN と無線 LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- 本パソコンをバッテリーで運用中に無線 LAN を使用する場合は、バッテリー残量に注意してください。
- IEEE 802.11a 準拠の W53 (52/56/60/64ch) では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53 以外のすべての通信もいったん切断されます。

4 ドライブ関連

ドライブ構成

HDD 容量 30GB の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 15GB	NTFS
D	約 15GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

ご購入時に HDD 容量 40GB を選択された方は、以下のようになります。

HDD 容量 40GB の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 15GB	NTFS
D	約 25GB	NTFS
E	接続したドライブ	ドライブ接続時

POINT

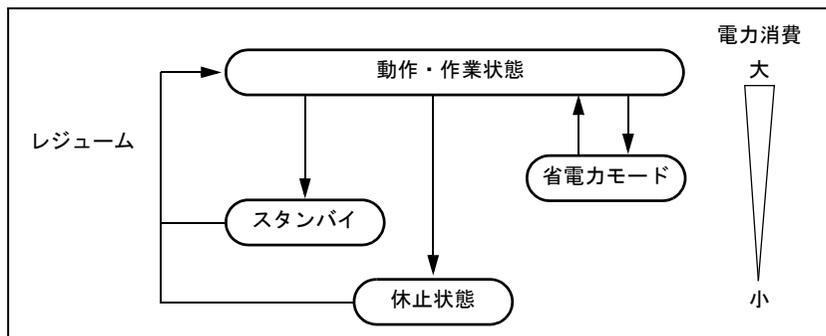
- ・ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。

5 省電力

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイするよう設定されています。

スタンバイ／休止状態／省電力モード

スタンバイ、休止状態または省電力モードを使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



・スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプが点滅します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、接続していない場合はバッテリーから供給されます。

・休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。そのため、スタンバイよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。

・省電力モード

Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることができます。省電力モードは、スタンバイや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスタンバイや休止状態ほどは節約できません。

注意事項

共通の注意事項

- ・ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします (→ P.101)。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- ・ パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。

- ・スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- ・接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- ・レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- ・次の場合は、スタンバイや休止状態にしないでください。
 - Windows の起動処理中または終了処理中
 - パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ハードディスク、またはフロッピーディスクにアクセス中
 - オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
 - ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- ・周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
「ハードウェア」（→ P.23）、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ・別売の LAN カードをお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで「電源設定」タブの各項目を「なし」に設定してください。
- ・CD や DVD を読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ・ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wake up on LAN）を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します（→ P.101）。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

POINT

- ・設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

スタンバイ時の注意事項

- ・バッテリーを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリーを満充電した状態では、約 1 日です。
- ・スタンバイ時にはシステム RAM（メモリ）でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリー運用の場合は、バッテリー残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリーが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- ・お使いになるコンパクトフラッシュカードによっては、バッテリー運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

休止状態の注意事項

- ・コンパクトフラッシュカードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ・ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

省電力モードの注意事項

- ・省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
 - CF (コンパクトフラッシュ) カードスロット
 - SD メモリーカードスロット
 - 有線 LAN
- ・省電力モードにするとコンパクトフラッシュカードが無効になる設定にしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず CF (コンパクトフラッシュ) カードスロットからコンパクトフラッシュカードを抜いてください。
コンパクトフラッシュカードを使う場合、省電力モードから通常モードに戻してから再度セットしてください。

省電力の設定

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
- 2** 「電源オプション」をクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

重要

- ・ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
「電源設定」タブの「システムスタンバイ」、「システム休止状態」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

■「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「電源設定」から「バッテリーの最大利用」または「ポータブル/ラップトップ」を選択し、各項目を次のように変更してください。

「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。

「システム休止状態」：休止状態にするまでの時間を設定できます。この項目は「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」をチェックした場合のみ表示されます。

出荷時の設定は、「バッテリーの最大利用」です。出荷時設定のまままでのご使用をお勧めします。

■「アラーム」タブ

バッテリーの残量が少なくなったときに Windows が出す警告に関する設定をします。

音で知らせる場合は、「アラームの動作」をクリックし、「通知方法」の「音で知らせる」にチェックを付けます。

POINT

- ・「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。この場合は、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

■「詳細設定」タブ

電源スイッチをスライドさせたときや液晶ディスプレイを閉じたときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時は、スタンバイになるように設定されています）。

「電源ボタン」の各項目を次のように変更してください。

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
：液晶ディスプレイを閉じたときの動作を設定できます。
- ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源スイッチをスライドさせたときの動作を設定できます。

重要

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「何もしない」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

■「休止状態」タブ

本パソコンを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックする（ご購入時にはチェックされています）と、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイまたは休止状態にする

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイ／休止状態にするには、次の方法があります。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

- 1 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。
- 2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

電源スイッチを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブでの設定により、電源スイッチをスライドさせたときにスタンバイまたは休止状態になります。詳しくは、「省電力の設定」(→ P.101) をご覧ください。

- 1 状態表示LEDのハードディスク／CDアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源スイッチをスライドさせます。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ・電源スイッチは4秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを4秒以上スライドさせると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを閉じる

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、スタンバイ／休止状態のどちらかに移行します。

重要

- ・液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1 状態表示LEDのハードディスク／CDアクセスランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイや休止状態にしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ・省電力状態になったことを示すピピッという音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。また、ハードディスクの音が止まったことを確認してください。スタンバイや休止状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ・液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源スイッチをスライドさせて、スタンバイや休止状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

レジュームには、次の方法があります。

電源スイッチを使う

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

スタンバイからレジュームする場合は電源ランプが点滅していることを確認してください。

1 電源スイッチをスライドさせます。

しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

LAN 着信によるレジューム (Wake up on LAN)

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。無線 LAN をお使いの場合、Wake up on LAN 機能はお使いになれません。

なお、「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイまたは休止状態中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下で Wake up on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

- 2 「スタート」 ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

- 5 次のデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

・ Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC

- 6 「電源の管理」タブをクリックします。

- 7 次の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。

- ・ 電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
- ・ このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする

省電力モードの設定

概要

Windows が起動しているときに「省電力ユーティリティ」を起動すると、省電力モードになり消費電力を節約することができます。

省電力モードでは、次の機能により消費電力が節約されます。

- ・ CF（コンパクトフラッシュ）カードスロットおよび SD メモリーカードスロットを使用できなくする
- ・ 有線 LAN を使用できなくする
- ・ 画面の明るさを暗くする
- ・ 「電源オプションのプロパティ」にある「ハードディスクの電源を切る」の時間を調整する

省電力モードの設定

【Fn】 キーを押した後にアプリケーションボタン 1 を押すと、「省電力モード」 ↔ 「通常モード」へと順に切り替わります。

POINT

通知領域の「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューからも切り替えることができます。

1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「モードの切り替え」をクリックします。
モードの切り替えを示すウィンドウが表示されます。

2. 「OK」をクリックします。
「省電力モード」 ↔ 「通常モード」が切り替わります。

省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定を変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更し、「OK」をクリックしてください。

POINT

- ・「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「省電力ユーティリティ」 → 「設定画面 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックしても設定画面を表示できます。
- ・設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「省電力ユーティリティ」 → 「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

1 「スタート」ボタン → 「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

4 「省電力ユーティリティ」タブをクリックします。

5 「設定を変更」をクリックします。

「省電力ユーティリティ設定画面 - [省電力ユーティリティ]」が表示されます。

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1	セキュリティについて	108
2	ネットワーク接続時のセキュリティ	109
3	不正使用からのセキュリティ	114
4	パソコン本体廃棄時のセキュリティ	116

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

重要

- ・弊社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティ対策は、本パソコンを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- ・セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておく必要があります。

コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

情報の漏えい

ネットワークなどを通してパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ・記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

不正使用

使用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

盗難

パソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やパソコン内の情報が漏えいする危険性が高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

👉 重要

- ・コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、セキュリティ対策ソフトを使用したり、「Windows Update」を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。

また、インターネットに接続しない場合も、データによる感染を防ぐため、セキュリティ対策ソフトの初期設定をすることをお勧めします。

本パソコンには、様々な機能を備えた総合的なセキュリティ対策ソフト「Norton Internet Security」が用意されています。

■「Norton Internet Security」

「Norton Internet Security」をインストールする

- 1 デスクトップにある🌐 (Norton Internet Security2007 のセットアップ) をクリックします。

「FM かんたんインストール」ウィンドウが表示されます。

2 ①「Norton Internet Security」をクリックし、②「開始」をクリックします。



3 「インストールを開始します。」と表示されたら、「OK」をクリックします。

4 「ソフトウェアのインストール方法を選んでください。」と表示されたら、「自動」をクリックします。

「Norton Internet Security」のインストールが始まります。インストールが終了するまで、そのまましばらくお待ちください。

5 「インストールを終了しました。再起動してください。」と表示されたら、「再起動」をクリックします。

6 再起動後、「Norton Internet Security」の画面が表示されたら、初期設定を行います。

この後は、画面の指示に従って操作を進めてください。

定義ファイルのアップデート期限

初期設定が完了してから 90 日間は、定義ファイルのアップデートが利用できます。90 日に近づいたり、90 日を過ぎたりすると、更新サービスの申し込みをお勧めする画面が表示されます。その後も使い続けるには、更新サービス（有料）の申し込みが必要です。

お問い合わせ先

「Norton Internet Security」については、株式会社シマンテックにお問い合わせください。

■ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

Windows Update

POINT

- ・「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- ・インターネットに接続する前に、セキュリティ対策ソフトを設定することをお勧めします。本パソコンには、「Norton Internet Security」（→ P.109）が用意されています。
- ・「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ・「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- ・Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを1度に入手できる「Microsoft Update」を利用することもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

2 「高速」をクリックします。

パソコンの状態を診断します。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

アップデートナビ

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、弊社では改善に努めています。パソコンをよりお勧めの状態に整える「アップデートナビ」というサポート機能をご利用ください。「アップデートナビ」では、インターネットを経由して、弊社が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンを、より安定して動作するお勧めの状態にします。

- 1** 画面右下の通知領域にある（アップデートナビ）を右クリックします。
- 2** 「富士通へ最新情報を確認」をクリックします。
- 3** 「ご利用になる上でのご注意」の画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「承諾する」をクリックします。
「承諾しない」をクリックした場合、「アップデートナビ」はご利用いただけません。
- 4** 更新項目を確認します。必要に応じて、概要、詳細をご覧ください。
更新したくない項目がある場合は、その項目の左にあるチェックを外します。通常は、すべての項目を更新することをお勧めします。
- 5** 「更新開始」をクリックします。
更新情報が自動的にダウンロードされ、インストールされます。

通信データの暗号化

ネットワーク経由でデータをやり取りしている場合、ネットワーク上で情報の漏えいを招くことがあります。重要なデータはあらかじめ暗号化するなどして保護することが大切です。Windows XP Professional には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」があります。TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化できます。詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

無線 LAN 使用時の通信データの暗号化

無線 LAN を選択した方のみ

無線 LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他の無線 LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、無線 LAN のデータを暗号化するための機能が搭載されています。

詳しくは、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

なお、無線 LAN アクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、よりパソコンの安全性を高めることができます。

重要

- ・パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ・パスワードを何かに書き留めるときは、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windowsでは、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windowsでは、ファイルシステムとしてNTFSを使用しています。NTFSでは、次のようなことができます。

- ・フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- ・フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故や盗難などでハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きまます。

また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.149) をご覧ください。

指紋センサー

重要

- ・指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- ・パソコン本体の使用時、指紋センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- ・指紋センサーが汚れた場合は、大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を取り除いてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

Windows のログオンやパスワードの必要なホームページへのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証だけでなく、指紋による個人認証が行えます。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。

詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

4 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアを利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.120）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して2回上書き（ランダムデータ+0データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoDやNSAなど海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁氣的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/)をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

Memo

5

第5章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	120
------------------	-----

1 ソフトウェア一覧

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- 添付されているソフトウェアは「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」、「アプリケーションディスク 2」に格納されています。
 - ◎：プレインストールされています。
 - △：添付の「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク 1」からインストールしてください。
 - ▲：専用のディスクが添付されています。
 - ：ハードディスクにあらかじめ導入されており、デスクトップのアイコンからの初回起動時に自動的にセットアップします。

名称		搭載状況
Norton Internet Security	… → P.122	■
Adobe Reader	… → P.123	◎
FM ユーザー登録	… → P.124	◎
FM かんたんインストール	… → P.124	△
FM かんたんバックアップ	… → P.124	◎
FMV 診断	… → P.125	◎
Fujitsu Display Manager	… → P.125	◎
IndicatorUtility	… → P.125	◎
OmniPass	… → P.125	◎
Plugfree NETWORK	… → P.126	◎
PowerUtility- スケジュール機能	… → P.126	◎
PowerUtility- リモート管理機能	… → P.127	◎
アップデートナビ	… → P.129	◎
省電力ユーティリティ	… → P.130	◎
ハードディスクデータ消去	… → P.130	△
マイリカバリ	… → P.132	◎
メールソフト切り替えツール	… → P.132	◎
Office Personal 2007 ^[注]	… → P.133	◎ (▲)

[注] Office Personal 2007 を選択した場合に搭載されます。

POINT

- ソフトウェアによって、縦画面使用時は、ウィンドウの移動が必要になります。

ポータブル CD/DVD ドライブを選択した場合

次のソフトウェアをお使いになるときは、最初に「アプリケーションディスク 2」からインストールしてください。

名称		搭載状況
Roxio EasyMedia Creator	… → P.128	▲ ^[注]
WinDVD	… → P.129	▲

[注] 液晶ディスプレイは、横向きでお使いください。

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ・インストールには CD/DVD ドライブが必要です。
- ・「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

Norton Internet Security

■ 概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton Internet Security」→「Norton Internet Security」の順にクリックして起動します。

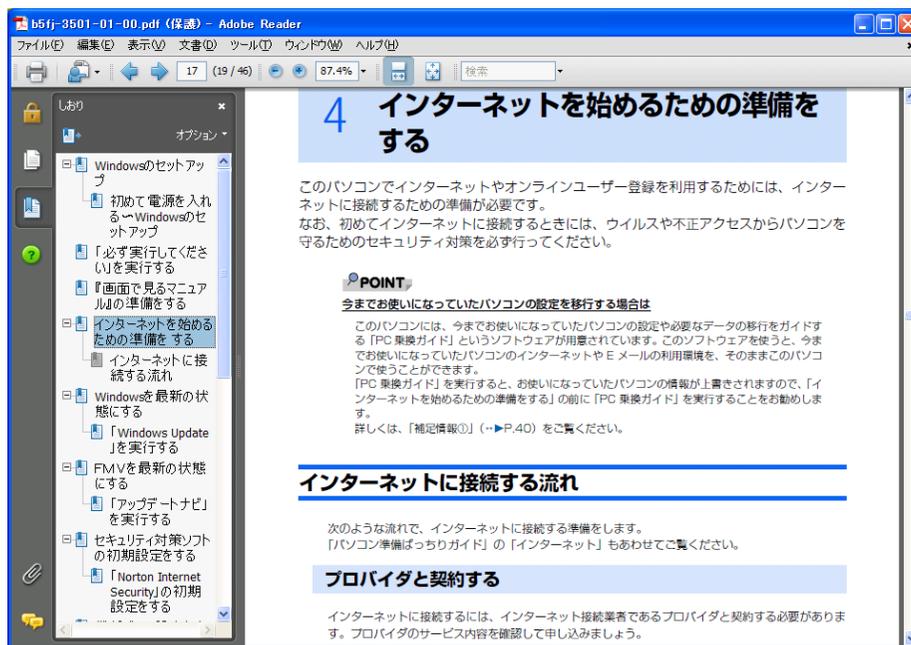
「Norton Internet Security」の画面で、「ヘルプとサポート」→「Norton Internet Security ヘルプ」の順にクリックします。

Norton Internet Security の初期設定方法については、「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」（→ P.109）をご覧ください。

Adobe Reader

■ 概要

PDF（Portable Document Format）ファイルを表示、閲覧、印刷できます。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Adobe Reader 8」の順にクリックして起動します。

「Adobe Reader」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「Adobe Reader 8 ヘルプ」の順にクリックします。

FMV ユーザー登録

■ 概要

FMV シリーズのパソコンのユーザー登録を行うソフトウェアです。

■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV ユーザー登録」→「FMV ユーザー登録」の順にクリックして起動します。

ユーザー登録については、添付の冊子『サポート & サービスのご案内』をご覧ください。

FM かんたんインストール

■ 概要

添付の「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」または「アプリケーションディスク2」に収録されているソフトウェアをパソコンにインストールしたり、パソコンから削除（アンインストール）したりできます。

必要なソフトウェアをクリックするだけで、簡単にインストールできます。

■ 使い方

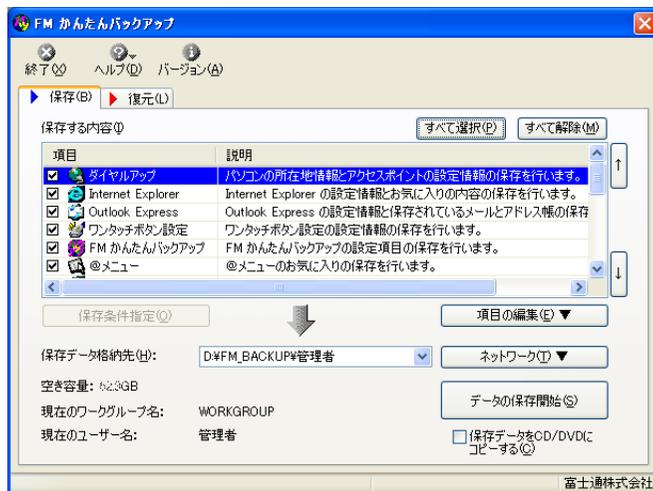
ディスクをセットして起動します。

「FM かんたんインストール」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

FM かんたんバックアップ

■ 概要

いざというときに備えて、大切なデータやインターネットに関する設定をバックアップ（保存）するためのソフトウェアです。バックアップをとってあれば、データやインターネットに関する設定を、簡単に元に戻すことができます。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FM かんたんバックアップ」→「FM かんたんバックアップ」の順にクリックして起動します。

「FM かんたんバックアップ」の画面で、「ヘルプ」をクリックします。

FMV 診断

■ 概要

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

■ 使い方

「トラブルシューティング」－「トラブル発生時の基本操作」－「診断プログラムを使用する」－「FMV 診断」(→P.163)をご覧ください。

Fujitsu Display Manager

■ 概要

パソコンを自分の好きな画面設定に切り替えて使えるソフトウェアです。外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの表示切り替えや、目的にあわせた表示設定の選択が簡単にできます。

■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にクリックして起動します。

使いかたは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にクリックします。

IndicatorUtility

■ 概要

音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更が行われた場合に、パソコンの画面上にインジケータを表示するユーティリティです。

この機能を利用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリー節約に役立てることができます。

OmniPass

■ 概要

指紋認証を使うための設定を行います。新たなユーザーを登録したり、指紋認証でユーザーを切替えたり、ホームページのログオンに必要な ID、パスワードなどを入力したりできます。

■ 使い方

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

Plugfree NETWORK

■ 概要

通信環境判別／切り替えソフトウェアです。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Plugfree NETWORK」→「Plugfree NETWORK」の順にクリックして起動します。

使い方は、「Plugfree NETWORK」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

PowerUtility - スケジュール機能

■ 概要

タイマーでパソコンの電源のオフやソフトウェアの起動をするためのソフトウェアです。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「スケジュール」→「PowerUtility- スケジュール機能」の順にクリックして起動します。

使い方は、「PowerUtility - スケジュール機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

PowerUtility - リモート管理機能

■ 概要

ネットワークでつながった別のパソコンをリモート管理するためのソフトウェアです。



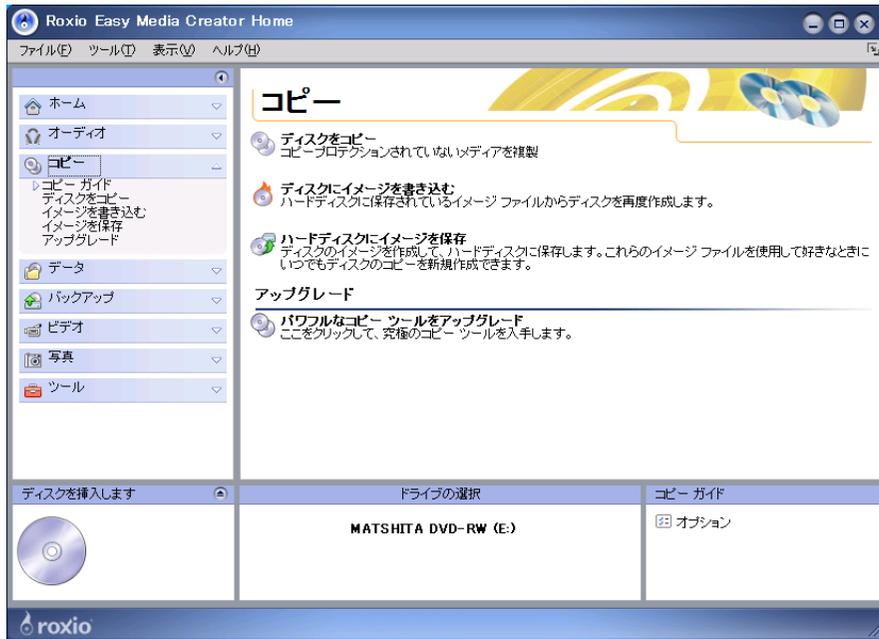
■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「PowerUtility」→「リモート」→「PowerUtility-リモート管理機能」の順にクリックして起動します。

使い方は、「PowerUtility - リモート管理機能」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

Roxio Easy Media Creator

音楽 CD やデータ CD、DVD を簡単に作成できるソフトウェアです。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio」→「Easy Media Creator Home」→「Home」の順にクリックして起動します。

使い方は、「Easy Media Creator」の画面で、「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックしてご覧ください。

POINT

- ・液晶ディスプレイは、横向きでお使いください。

WinDVD

■ 概要

映画や音楽などのDVDを再生するソフトウェアです。パソコンで映画や音楽を楽しめます。



■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「InterVideo WinDVD」の順にクリックして起動します。

使い方は、「WinDVD」の画面で、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

アップデートナビ

■ 概要

インターネットを経由して、富士通が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンが安定して動作するお勧めの状態にすることができます。画面に表示されるメッセージに従って操作すると、簡単にアップデート（更新）できます。

「アップデートナビ」が起動しているときは、画面右下の通知領域に（アップデートナビ）が表示されます。

■ 使い方

「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」（→P.111）をご覧ください。

省電力ユーティリティ

■ 概要

お使いの状況に合わせて、省電力モードの設定を変更することができるソフトウェアです。

■ 使い方

「機能」－「省電力」－「省電力モードの設定」(→ P.105) をご覧ください。

ハードディスクデータ消去

■ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「パソコン本体廃棄時のセキュリティ」－「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」(→ P.116) をご覧ください。

■ 注意事項

- ・本ツールでは、本パソコンに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- ・1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- ・「リカバリディスク」を起動してから24時間経つと、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「リカバリディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してからハードディスクデータ消去を実行してください。
- ・必要なデータはバックアップしてください。
- ・「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- ・周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- ・データ消去終了まで、数時間かかります。
- ・データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- ・データ消去中にリカバリディスクを取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

■ データ消去法

次のものを用意してください。

- ・リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク 1

POINT

ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

- 1** 「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク 1」をセットします。
- 2** 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

4 【Fn】キーを押しながら【↓】キーを押し、「起動メニュー」を選択し、【Enter】キーを押します。
メニューが表示されます。

 **POINT**

- ・メニューが表示されない場合は、【Fn】 + 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

5 CD-ROMドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
しばらくすると「使用許諾」ウィンドウが表示されます。

6 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックします。
「リカバリ&ユーティリティメニュー」ウィンドウが表示されます。

7 「ユーティリティ」タブをクリックして「ハードディスクデータ消去」をクリックし、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

8 注意事項をよく読み、「同意します」をクリックして選択し、「次へ」をクリックします。
消去するハードディスクを選ぶ画面が表示されます。

9 データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。
データを消去する方式を選ぶ画面が表示されます。

10 消去する方法を選択し、「次へ」をクリックします。
エラーが発生したときの処理を選ぶ画面が表示されます。

11 エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
ハードディスクの情報と、データ消去中の注意事項が表示されます。

12 「開始」をクリックします。
確認のウィンドウが表示されます。

13 「OK」をクリックします。
しばらくすると、「電源（パソコン電源）ボタンを4秒以上押し続けて、電源を切ってください。」と表示されます。

14 「リカバリ&ユーティリティディスク／アプリケーションディスク 1」を取り出します。

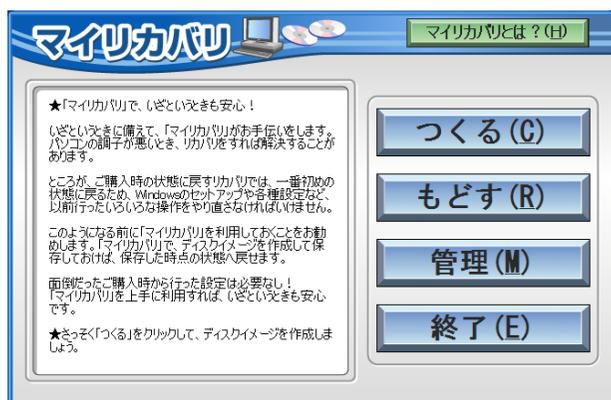
15 電源スイッチを 4 秒以上スライドし続けて、パソコンの電源を切ります。

マイリカバリ

■ 概要

現在の C ドライブのディスクイメージを保存できます。

Windows などのシステムが不安定になった場合でも、今まで使っていた設定や環境にすぐに復元することができます。



■ 使い方

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

メールソフト切り替えツール

■ 概要

通常使うメールソフトの起動設定を、簡単に切り替えることができます。メールソフトは、ご購入時にインストールされている「Outlook Express」、「Outlook 2007」（「Office Personal 2007」を選択した場合に搭載）から選ぶことができます。

■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「メールソフト切り替えツール」→「メールソフト切り替えツール」の順にクリックして起動します。

Office Personal 2007

■ 概要

- ・ Word 2007

文字の入力から編集、印刷、保存まで、簡単な操作で文書を作成できる日本語ワープロです。

- ・ Excel 2007

ワークシートと呼ばれる集計用紙にデータを入力して表を作成し、集計、並べ替えなどを行うソフトウェアです。入力したデータを利用してグラフを作成することもできます。

- ・ Outlook 2007

メールの送受信の他、予定表や連絡先、仕事など個人の情報をまとめて管理するソフトウェアです。

■ 使い方

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」の順にクリックしていくと、表示されるそれぞれのソフトウェア名をクリックして起動します。

使い方は、それぞれの画面で、「ヘルプ」メニューからヘルプをクリックしてご覧ください。

アンインストール方法

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ・「管理者 (Administrator)」のユーザーアカウントでログオンしてください。
- ・ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- ・DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- ・アンインストール機能を使用する

ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- ・「プログラムの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

6

第 6 章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。
また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する
方法についても説明しています。

1 BIOS セットアップとは	136
2 BIOS セットアップの操作のしかた	137
3 メニュー詳細	142
4 BIOS のパスワード機能を使う	149
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	154

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- ・ 起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ・ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.138）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ・ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。
- ・ 起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ・ 起動時の自己診断（POST）
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST: Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「マウスをクリックするか、< Enter >を押してください。」と表示されたらすぐに、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。



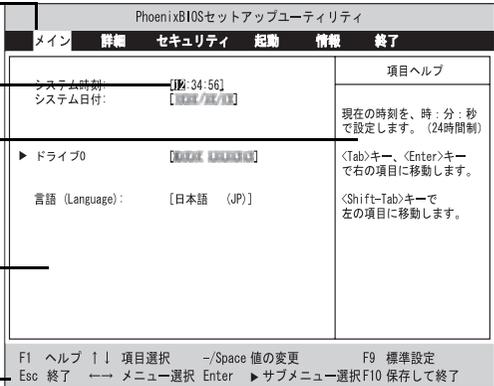
POINT

- ・ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

4 【Fn】キーを押しながら【↓】キーまたは【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、もう一度【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

メニューバー メニューの名称が表示されます。	 <p>The screenshot shows the PhoenixBIOS Setup Utility interface. At the top, there are tabs: 'メイン' (Main), '詳細' (Advanced), 'セキュリティ' (Security), '起動' (Boot), '情報' (Information), and '終了' (Exit). The '起動' (Boot) tab is selected. The main area shows 'システム時刻' (System Time) set to [JST 34:56] and 'システム日付' (System Date) set to [2007/02/11]. Below that, 'ドライブ0' (Drive 0) is highlighted, with a sub-menu for '言語 (Language): [日本語 (JP)]'. A '項目ヘルプ' (Item Help) box on the right explains navigation: '<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。' and '<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。'. At the bottom, a legend lists: 'F1 ヘルプ', '↑ ↓ 項目選択', '-/Space 値の変更', 'F9 標準設定', 'Esc 終了', '← → メニュー選択', 'Enter サブメニュー選択', 'F10 保存して終了'.</p>
カーソル 設定する項目に合わせて。 項目ヘルプ カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。	
設定フィールド 各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。	
キー一覧 設定時に使うキーの一覧です。	

(画面は機種やモデルにより異なります)

POINT

- ・手順4で「起動メニュー」を選択すると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。



- ・手順4で「診断プログラム」を選択すると、「診断プログラム」が起動します。お問い合わせのときに、担当者の指示に従ってご使用ください。

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1** 【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【Fn】キーを押しながら【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【Fn】キーを押しながら【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.141)をご覧ください。

重要

BIOS セットアップは正確に設定してください。

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ・ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」(→ P.147)をご覧ください。
- ・ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ・ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【Fn】 + 【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】 + 【H】キー	
【Fn】 + 【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【Fn】 + 【-】キー	
【Fn】 + 【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【Fn】 + 【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【Fn】 + 【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【X】キー	「起動デバイスの優先順位」の画面で、起動デバイスリストから起動デバイスを除外または追加する場合に使用します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】 + 【X】キー	

POINT

- ・ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【Fn】キーを押しながら【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

3 【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ・サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。
- ・設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→P.147）。
- ・いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→P.147）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 【Fn】キーを押しながら【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

重要

- ・ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■ システム時刻

■ システム日付

■ ドライブ 0

POINT

- ・ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.147) を実行した直後は、「ドライブ 0」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- ・ タイプ

POINT

- ・ 通常は「自動」に設定してください。

- LBA フォーマット
- ・ 合計セクタ
- ・ 最大容量
- ・ マルチセクタ転送
- ・ LBA モード制御
- ・ 転送モード
- ・ Ultra DMA モード

POINT

- ・ 「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は、「タイプ」が「自動」で、8.4GB 以下のハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ・ 「合計セクタ」、「最大容量」は、「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ・ 「タイプ」以外の項目は、表示のみで設定できません。

■ 言語 (Language)

POINT

- ・ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

■ キーボード／マウス設定

- ・ 起動時の Numlock 設定

■ ディスプレイ設定

POINT

- ・ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→ P.82)をご覧ください。

- ・ ディスプレイ
- ・ 全体表示

■ その他の内蔵デバイス設定

- ・ IDE コントローラ
- ・ 内蔵 LAN デバイス
- ・ 無線 LAN デバイス

POINT

- ・ お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」は表示されません。

■ CPU 設定

- ・ SpeedStep (R) テクノロジ
 - バッテリ運用時
 - AC 運用時
- ・ XD ビット機能

■ USB 設定

- ・ レガシー USB サポート
 - SCSI サブクラスサポート

POINT

- ・ 「SCSI サブクラスサポート」を使用して、パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

■各種設定

- ・電源ボタン
- ・LANによるウェイクアップ
 - 強制LANブート
- ・音量設定
- ・UMA ビデオメモリサイズ
- ・ハードウェア省電力機能

■イベントログ設定

- ・イベントログ領域の状態
- ・イベントログ内容の状態
- ・イベントログの表示

POINT

- ・ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnn nnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- ・ イベントログ
 - システム起動
- ・ イベントログの消去
- ・ イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■管理者用パスワード

■ユーザー用パスワード

■管理者用パスワード設定

POINT

- ・ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - ・ 自動ウェイクアップ時
 - ・ レジューム時のキーボードロック
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報

■ ユーザー用パスワード設定

POINT

- ・ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ・ 本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■ 起動時のパスワード

- ・ 自動ウェイクアップ時

■ レジューム時のキーボードロック

POINT

- ・ USB 規格の周辺機器は「レジューム時のキーボードロック」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

■ 取外し可能なディスクからの起動

■ BIOS フラッシュメモリへの書き込み

■ ハードディスクセキュリティ

重要

- ・ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要になります。

- ・ ドライブ 0 用パスワード
- ・ ドライブ 0 用パスワード設定
- ・ 起動時のパスワード入力

POINT

- ・ ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「使用しない」に設定してください。

■ 所有者情報

POINT

- ・ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- ・ 所有者情報
- ・ 所有者情報設定
- ・ 文字色
- ・ 背景色

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■ 高速起動

■ 起動時の自己診断画面

■ 起動メニュー

POINT

- ・ 管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

■ ネットワークサーバからの起動

■ 起動デバイスの優先順位

- ・ 起動デバイスリスト
 - 1 : Floppy Disk Drive
 - 2 : Drive0 : nnnnn
 - 3 : CD/DVD Drive
 - 4 : NETWORK : nnnnn
 - 5 :
 - 6 :
 - 7 :
 - 8 :
- ・ 除外された起動デバイス
 - : USB MEMORY : None
 - : USB HDD : None

POINT

- ・ 起動デバイスリスト内の nnnnn には、お使いのデバイス名が表示されます。
- ・ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したりすることができます。また、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻すこともできます。
- ・ 「1 : Floppy Disk Drive」はポータブルの FDD ユニット (USB) も含まれます。
- ・ 「3 : CD/DVD Drive」はポータブル CD/DVD ドライブ (USB) も含まれます。

- ・「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「4: NETWORK: nnnnn」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「4: NETWORK: None」と表示され検索の対象外になります。
- ・CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。再起動前に CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

■ BIOS 版数

■ BIOS 日付

■ BIOS 領域

■ CPU タイプ

■ CPU 速度

■ L1 キャッシュ

■ L2 キャッシュ

■ 全メモリ容量

- ・ 標準メモリ

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■ 変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

■ 変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

■ 標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

■ 変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

■ 変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

■ 変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

設定できるパスワードは次のとおりです。

- ・ 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ・ ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ・ ハードディスク用パスワード
本パソコンのハードディスクを他のユーザーや他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.137) をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」(→ P.144)、または「ユーザー用パスワード設定」(→ P.145) を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.145) で設定することができます。

- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

ハードディスク用パスワードを設定する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→P.137)をご覧ください。
- 2** 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」(→P.145) → 「ドライブ0用パスワード設定」(→P.145) を選択して【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ パソコンを起動するとき
- ・ 休止状態からレジュームするとき
- ・ スタンバイからレジュームするとき

POINT

- ・ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのレジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ・ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- ・ 「PowerUtility-リモート管理機能」では、パソコンを指定時刻に自動的に起動させたり、LANを使って起動させたりできます。BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューにある「自動ウェイクアップ時」で、これらの機能を使って起動した場合にパスワードを入力するかどうかを設定することができます。

レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LED の Caps Lock ランプと Num Lock ランプが交互に点滅します。この状態では、フラットポイントとパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。

ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

- ・ 正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイントは使用できません。
- ・ Windows の「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続きWindowsのパスワードの入力も必要です。

ハードディスク用パスワード

ハードディスク用パスワードを設定すると、パソコンを起動するときにハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

POINT

- ・ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- ・ 「ハードディスクセキュリティ」(→ P.145) でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスク用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
- ・ 設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。
ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

パスワードを変更／削除する

重要

- ・ Windows を再起動して BIOS セットアップを起動したときには、ハードディスク用パスワードを変更／削除できません。
ハードディスク用パスワードを変更／削除する場合は、「終了メニュー」の「変更を保存して電源を切る」(→ P.148) を実行してください。次回起動時にハードディスク用パスワードを変更／削除することができます。

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.137) をご覧ください。
- 2 「セキュリティ」メニュー (→ P.144) で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。**
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定
- 3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- ・管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ・ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- ・誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源スイッチを4秒以上スライドして本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ・ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常自己診断 (POST) (→ P.136) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ・メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器に問題がない正常時には、BIOS のメッセージは自動では表示されません。

正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【Esc】キーを押します。

- ・ Please Wait... お待ちください ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ・ nnnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- ・ nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ・ マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ・ 正常時のメッセージを常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(→ P.146) の項目を「使用する」に設定してください。

エラーメッセージ

- ・ **拡張メモリエラー。アドレス行 : nn**

拡張メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **キーボードエラーです。**

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **キーボード接続エラーです。**

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **ディスクのエラーです。 : ハードディスク n**

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **システムタイマーのエラーです。**

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **リアルタイムクロックのエラーです。**

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

【Fn】 + 【F2】 キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

- ・ **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中で電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は 【Fn】 + 【F1】 キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は 【Fn】 + 【F2】 キーを押してください。

- ・ **< F1 > キーを押すと継続、 < F2 > キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【Fn】 + 【F1】 キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【Fn】 + 【F2】 キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティボタン異常**
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Remove disks or other media.**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

POINT

- 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

7

第7章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	160
2	トラブル発生時の基本操作	162
3	起動・終了時のトラブル	165
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	167
5	ハードウェア関連のトラブル	169
6	それでも解決できないときは	177

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

本パソコンの注意事項

- ・ 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ・ ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- ・ 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオなどの注意事項

- ・ テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- ・ アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.109) または「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.111) をご覧ください。また、『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「アップデートナビ」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windows については、「Windows Update (Microsoft Update)」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ・ ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。

- ・ 取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- ・ 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- ・ 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- ・電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- ・電源コンセント自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ・OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ・使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ・キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」（→P.165）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- ・周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ・ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→P.161）。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

Safe モードで起動する

Windowsが起動しない場合、Safeモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

1 本パソコンの電源を入れます。

- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【Fn】 + 【8(F8)】キーを押します。**
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3 【Fn】 + 【↓】キーまたは【Fn】 + 【↑】キーを押し、「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 お使いの Windows が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。**
- 5 メッセージを確認し、「はい」をクリックします。**
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
必要に応じて、問題があるドライバを再インストールしてください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

診断プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断／修正プログラムを用意しています。

- ・「FMV 診断」(→ P.163)
- ・「診断プログラム」(→ P.164)

FMV 診断

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ・起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ・スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ・CD/DVD ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ・ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。
- ・「FMV 診断」では、サウンド関連の診断をスピーカーが 2 個あることを想定して行いますが、このパソコンに搭載しているスピーカーは 1 つです。あらかじめご了承ください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

診断プログラム

Windows が起動しない場合、この診断プログラムを使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナルエコーセンター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に【Fn】 + 【E(F12)】キーを押します。

起動メニューが表示されます。

3 【Fn】 + 【↓】キーまたは【Fn】 + 【↑】キーを押し、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

診断プログラムが実行されます。表示される内容に従って操作を行ってください。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

■メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→ P.154) をご覧ください。

■電源が入らない

・ AC アダプタは接続されていますか？

お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。

・ バッテリーは充電されていますか？ (バッテリー運用時)

状態表示 LED のバッテリー残量ランプで、バッテリーの残量を確認してください。

バッテリー残量表示、および確認方法については、「ハードウェア」－「バッテリー残量を確認する」(→ P.35) をご覧ください。

バッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してお使いください。

・ 長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、ACアダプタを接続してから電源を入れてください。

■画面に何も表示されない

・ 電源ランプは点灯していますか？

- 点灯している場合

【Fn】 + 【D】 キー、または【Fn】 + 【S】 キーを押して明るさを調節してください。

- 点滅または消灯している場合

電源スイッチをスライドして動作状態にしてください。また、バッテリー運用時は、バッテリーが充電されているか確認してください。充電されていないときには、ACアダプタを接続して充電してください。

ACアダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

・ キーを操作していましたか？

本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします (何かキーを押すとバックライトが点灯します)。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

・ 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？

外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。

「機能」－「表示装置の切り替え」(→ P.82) をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

・ 外部ディスプレイを使用している場合 (→ P.82、→ P.85)、次の項目を確認してください。

- パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？

- セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？

必ずセットアップ後に接続してください。

- ・解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。

その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。

「機能」－「外部ディスプレイの走査周波数について」（→ P.88）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください（→ P.82）。

■ ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- ・キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【Fn】+【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

■ Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- ・次の手順で Windows を終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Fn】+【BS】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
 - ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ・強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ・強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.171）。

この操作で強制終了されないときは、電源スイッチを 4 秒以上スライドして電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

■ Windows が起動しなくなった

- ・ 周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.162）。

もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

- ・ Safe モードで起動できますか？

いったん Safe モードで起動し（→ P.162）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

- ・ Windows を正常に終了できなかった場合

次回起動時に自動的に Safe モードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのまま Safe モードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。

■ プログラムが動かなくなってしまった

- ・ 次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】 + 【Shift】 + 【Esc】 キーを押します。

「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2. 「アプリケーション」タブをクリックします。

3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

4. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ・ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ・ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.171）。

■ 省電力機能が実行されない

- ・ 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。

省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→ P.99）をご覧ください。

■ バッテリー運用時に画面がちらつく

- ・ ご購入時の状態で、本パソコンをバッテリー運用すると、液晶ディスプレイの消費電力を節約するインテル®ディスプレイ省電テクノロジーの機能が有効となり、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。

「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（→ P.74）をご覧になり、設定を変更してください。

■ 周辺機器の動作が不安定になった

- ・ なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
ドライバを再インストールしてください。

■ ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ・ ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

■ 画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- ・ Windows を起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
 - 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

POINT

- ・ Windows を起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- ・ BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」 (→ P.170)
- ・ 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」 (→ P.170)
- ・ 「エラーメッセージが表示された」 (→ P.170)
- ・ 「ネットワークに接続できない」 (→ P.170)
- ・ 「ネットワークリソースに接続できない」 (→ P.170)
- ・ 「ハードディスクが使えない」 (→ P.171)
- ・ 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→ P.171)
- ・ 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」 (→ P.171)
- ・ (CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→ P.172)
- ・ 「WinDVD が起動しない」 (→ P.172)
- ・ 「DVD の再生が円滑に行われぬ」 (→ P.172)
- ・ 「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」 (→ P.172)
- ・ 「DVD の再生音が小さい」 (→ P.172)
- ・ 「ディスクへの書き込み速度が遅い」 (→ P.172)
- ・ 「状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している」 (→ P.173)
- ・ 「状態表示 LED のバッテリー充電ランプがオレンジ色に点滅している」 (→ P.173)
- ・ 「バッテリーが充電されない」 (→ P.173)
- ・ 「画面に何も表示されない」 (→ P.173)
- ・ 「ディスプレイの表示が見にくい」 (→ P.173)
- ・ 「液晶ディスプレイが閉まらない」 (→ P.174)
- ・ 「表示が乱れる」 (→ P.174)
- ・ 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→ P.174)
- ・ 「マイクからうまく録音ができない」 (→ P.175)
- ・ 「押したキーと違う文字が入力される」 (→ P.175)
- ・ 「ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」 (→ P.175)
- ・ 「USB デバイスが使えない」 (→ P.175)
- ・ 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」 (→ P.175)
- ・ 「プリンタを使用できない」 (→ P.176)
- ・ 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」 (→ P.176)

BIOS

■管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

■ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.149) をご覧ください。

■エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→P.154) をご覧ください。

内蔵 LAN

■ネットワークに接続できない

- ・ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ・ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。
- ・内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。
 - 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
必要に応じて、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。再度設定等を確認してください。
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
 - LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。
- ・画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- ・スタンバイや休止状態にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われません場合があります。

■ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- ・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント / サービス / プロトコル）をインストールしていますか？
- ・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- ・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- ・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- ・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

ハードディスク

■ハードディスクが使えない

- ・エラーメッセージは出ていませんか？
「BIOS」 - 「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.154）をご覧ください。

■ハードディスクからカリカリ音がする

- ・次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - Windows を終了した直後
 - スタンバイや休止状態にした直後
 - パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
 - パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- ・次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックしてCドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。
- 修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（→『取扱説明書』）。

POINT

- ・新しいユーザーを作成すると、エラーメッセージが表示されることがあります。この場合も、同様の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

■ ディスクからデータの読み出しができない

- ・ ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ・ ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ・ ディスクが傷ついたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- ・ 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

■ WinDVD が起動しない

- ・ 市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？
市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。
- ・ 自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。

■ DVD の再生が円滑に行われぬ

- ・ 「WinDVD」を正しくインストールしましたか？
「WinDVD」を再インストールしてください。
- ・ 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」を再インストールしてください。
- ・ Wave 音源の再生、または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源、または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

■ 外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- ・ パソコン本体がマルチモニター機能を使用していませんか？
マルチモニター機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

■ DVD の再生音が小さい

- ・ パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

■ ディスクへの書き込み速度が遅い

- ・ ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？
ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

バッテリー

■ 状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

- ・ バッテリーは正しく取り付けられていますか？

バッテリーが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。バッテリーパックの交換については、「ハードウェア」－「内蔵バッテリーパックを交換する」(→P.38)をご覧ください。

■ 状態表示 LED のバッテリー充電ランプがオレンジ色に点滅している

- ・ バッテリー運用直後ではありませんか？

バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリー充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリーの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリー残量を表示します。

■ バッテリーが充電されない

- ・ AC アダプタは接続されていますか？

AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

- ・ バッテリーが熱くなっていませんか？

状態表示LEDのバッテリー充電ランプがオレンジ点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリーの温度が上昇すると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

- ・ パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示LEDのバッテリー充電ランプがオレンジ点滅します。

バッテリーの温度が5℃以下になっていると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

- ・ 充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリーの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリーの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリーで稼働させ、バッテリー残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリーの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

■ 画面に何も表示されない

- ・ 「起動・終了時のトラブル」(→P.165)の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

■ ディスプレイの表示が見にくい

- ・ ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

- ・明るさなどを調節しましたか？
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→P.74) をご覧になり、明るさを調節してください。

■液晶ディスプレイが閉まらない

- ・間に物がはさまっていませんか？
無理に閉めようとするとう液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

■表示が乱れる

- ・Windows の画面が正常に表示されない場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windowsが起動しないときは、Safeモードで起動してからインストールしてください(→P.162)。
- ・ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。

- ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

- ・ 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください (→P.160)。
- ・ 外部ディスプレイに出力していますか？
外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください (→P.88)。

サウンド

■スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- ・ 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - 音量は正しく調節されていますか？
本体側面の音量ボリュームで音量を調節してください。
 - スピーカーの出力は ON になっていますか？
本体側面の音量ボリュームを押して、ミュートになっていないかを確認してください。
- ・ 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」(→P.89) をご覧ください。
- ・ 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- ・ ハードウェアの競合が起こっていませんか？
- ・ サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。

■ マイクからうまく録音ができない

- ・音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」（→P.89）をご覧ください。

キーボード

■ 押したキーと違う文字が入力される

- ・テンキーモードになっていたり、【CapsLk】キーが有効になっていませんか？
状態表示LEDのNum Lk表示やCaps Lk表示が点灯していないか確認してください。
- ・「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

ポインティングデバイス

■ ポインティングデバイスが使えないため、Windowsを終了できない

- ・キーボードを使用してWindowsを終了してください（→P.166）。

USB

■ USB デバイスが使えない

- ・ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ・USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

■ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- ・デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- ・外部から電源を取らないUSB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順でUSB コネクタの電力使用状況を確認してください。

1. 「スタート」 ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「ハードウェア」 タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
4. 「電力」 タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

プリンタ

■ プリンタを使用できない

- ・ 次の点を確認してください。

- プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
- ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- プリンタの電源は入っていますか？
- プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧ください、再インストールしてください。
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？ (→ P.170)

その他

■ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- ・ 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

本製品に添付されているソフトウェアは、提供会社によってお問い合わせ先が異なります。お問い合わせについては、添付の冊子『サポート&サービスのご案内』をご覧ください。

索引

B

BIOS セットアップ	136
-各キーの役割	140
-起動する	137
-終了する	141
-設定を変更する	139
-操作のしかた	138
BIOS のパスワード機能を使う	149

C

Caps Lock ランプ	20
CF カードスロット	58

D

DC-IN コネクタ	14, 54
------------	--------

F

FMV 診断	163
--------	-----

L

LAN	94
LAN コネクタ	18, 54
LAN 着信によるレジューム	104

N

Num Lock ランプ	19
--------------	----

S

Safe モード	162
Scroll Lock ランプ	20
SD メモリーカード	61
SD メモリーカードスロット	14

U

USB コネクタ	13, 54
----------	--------

W

Wakeup on LAN	104
Windows Update	111

あ行

色数	80
液晶ディスプレイ	11
-お手入れ	71
音量ボリューム	14

か行

解像度	80
-----	----

外部ディスプレイ	66
-コネクタ	18, 54
外部ディスプレイの走査周波数	88
管理者用パスワード	149
キーボード	11, 31
-お手入れ	72
起動時の自己診断 (POST)	136
起動メニュー	146
吸気孔	16
休止状態	99
コンパクトフラッシュカード	57

さ行

指紋センサー	11, 115
周辺機器	25
終了メニュー	147
詳細メニュー	143
状態表示 LED	11, 19
省電力	99
情報メニュー	147
診断プログラム	164
スティックポイント	26
-使い方	27
スピーカー	12
セキュリティ	108
セキュリティメニュー	144
接続コネクタ	54
全画面表示と通常表示の切り替え	76

た行

タッチパネル	29
ディスプレイの明るさ設定	74

な行

内蔵バッテリーパック	16
-ロック	16
内蔵マイク	11
内蔵無線 LAN アンテナ	10

は行

ハードディスクアクセスランプ	20
ハードディスクデータ消去	130
ハードディスク用パスワード	149
排気孔	16
パスワード (BIOS)	149
-削除する	153
-設定する	149
-変更する	152
パソコン本体のお手入れ	71
バッテリー	
- LOW バッテリー状態	36
- 異常表示	35

ー運用する.....	34
ー交換する.....	38
ー残量表示.....	35
ー残量ランプ.....	20
ー充電する.....	33
ー充電ランプ.....	20
ー取り扱い上の注意.....	36
バッテリー温度アラーム.....	33, 35
バッテリー充電ランプ.....	33
表示装置の切り替え.....	82
プリンタ.....	65
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子..	15, 92
ポインティングデバイス.....	26
ポートリプリケータ.....	53
ー取り付ける.....	54
ー取り外す.....	56

ま行

マイク・ラインイン兼用端子.....	15, 92
マルチモニタ機能.....	85
無線 LAN.....	96
無線 LAN アンテナ.....	10
メインメニュー.....	142
メッセージ (BIOS).....	154

や行

ユーザー用パスワード.....	149
-----------------	-----

ら行

レジューム.....	104
ローテーション機能.....	78

わ行

ワイヤレススイッチ.....	14
----------------	----

FMV-BIBLO LOOX U50WN

製品ガイド
B5FJ-4421-01 Z0-00

発行日 2007年6月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。